

令和2年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

令和2年3月3日（火曜日）

議事日程第3号

令和2年3月3日（火曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤	惣一郎	君	2番	東野	恭行	君
3番	山本	剛	君	4番	吉川	慶一	君
5番	中村	実	君	6番	滝川	正義	君
7番	佐藤	孝	君	8番	新保	峰孝	君
9番	田原	実	君	10番	保坂	悟	君
11番	笠原	幸江	君	12番	斉木	勇	君
13番	高澤	公	君	15番	田中	立一	君
16番	古川	昇	君	17番	渡辺	重雄	君
18番	松尾	徹郎	君	19番	五十嵐	健一郎	君
20番	吉岡	静夫	君				

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹 君 副市長 藤田 年明 君

総務部長	山本 将世 君	市民部長	五十嵐 久英 君
産業部長	見辺 太 君	総務課長	渡辺 成剛 君
企画定住課長	渡辺 孝志 君	財政課長補佐	嵐口 守 君
能生事務所長	土田 昭一 君	青海事務所長	穂苅 真 君
市民課長	小林 正広 君	環境生活課長	高野 一夫 君
福祉事務所長	川合 三喜八 君	健康増進課長	池田 隆 君
商工観光課長	大嶋 利幸 君	農林水産課長	猪又 悦朗 君
建設課長	五十嵐 博文 君	復興推進課長	斉藤 喜代志 君
会計課長 会計管理者兼務	山口 和美 君	ガス水道局長	樋口 昭人 君
消防長	丸山 幸三 君	教育長	井川 賢一 君
教育次長	磯野 茂 君	教育委員会こども課長	磯野 豊 君
教育委員会こども教育課長	泉 豊 君	教育委員会生涯学習課長	
		中央公民館長兼務	小島 治夫 君
教育委員会文化振興課長 市民会館長兼務	伊藤 章一郎 君	市民図書館長兼務	
		監査委員事務局長	渡辺 一彦 君

〈事務局出席職員〉

局 長	松木 靖 君	次 長	山川 直樹 君
係 長	上野 一樹 君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、1番、平澤惣一郎議員、20番、吉岡静夫議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

1、地域医療の現状と課題、8050問題、産婦人科確保への対応について。

(1) 糸魚川市が主催した地域医療フォーラム「8050問題を考える」の内容と成果について伺います。

(2) 社会に居場所をつくれずに「ひきこもり」状態の人を社会問題としたり、就労と自立だけを成果とする支援から、その人その人が幸せに生きていくことに寄り添う支援へと、意識と対応を変えていく必要があることをフォーラムの講師の話聞いて知りました。行政もこの点を課題として策を講じる必要があると思います。

糸魚川市のこれからの対応を伺います。

(3) 人口減少の影響が最も心配される産婦人科の存続について、出生数、医療機関の現状と課題、市の施策と成果について伺います。

(4) 糸魚川市で暮らす、働く魅力を打ち出し、医師、看護師、医療スタッフに移住、定住していただくための、市の施策とこれまで成果について伺います。

(5) 出生数の確保や医療スタッフの確保には、何よりも糸魚川市の人口を増やすことだと医療関係の方から意見をいただきました。実際には人口を増やすことは困難ですが、急激に減らさないことで、医療機関の安定的な運営を持続させる計画と実行が現在の糸魚川市にあるか伺います。

2、相馬御風顕彰と都市交流について。

本来、相馬御風先生と申し上げるところを、相馬御風、あるいは御風とさせていただきますことをお許しいただきたいと思います。

(1) 平成28年3月の一般質問でも相馬御風顕彰を取り上げましたが、4年間の相馬御風顕彰の動きと成果について伺います。

(2) 奴奈川姫伝説やひすいの再発見など、糸魚川の魅力探求の祖とも言える相馬御風の功績の紹介がまだまだ不足していると感じます。今後の取組について伺います。

(3) 糸魚川の大火の歴史と御風の生涯について伺います。

(4) 昭和7年の大火からの復興を祝い昭和11年につくられた相馬御風作詞、中山晋平作曲の「糸魚川小唄」は、私たち市民の心のふるさとです。再度光を当てて、かつてのように市内各所で、いろんな場面で「糸魚川小唄」を踊ることを勧めてはいかがでしょうか。市民の健

康増進と交流に役立つと思います。「小唄で元気なまちづくり」を提案しますがいかがですか、伺います。

(5) 時代に合わせた新しい切り口で御風顕彰を進めるべきです。御風の生涯と功績をアニメやコミック誌で紹介し、テレビなどのドラマ化を目指してほしいと以前担当課に提案したことがありますがいかがですか、伺います。

(6) 御風顕彰の推進により交流人口を増やすことが可能です。市長が以前に議会答弁の中で触れた、塩尻市、高岡市との短歌でつながる都市交流もその1つですがいかがですか、伺います。

3、糸魚川駅を拠点とする観光戦略、鉄道ジオラマ、フォッサマグナミュージアム、谷村美術館、押上ヒスイ海岸、駅周辺飲食店等の活用と経済効果、HAKUBA VALLEYとの観光連携について。

(1) 糸魚川駅を拠点とする観光戦略における地域資源連携の重要性について、市長行政の認識と対応を伺います。

(2) ジオパル内鉄道ジオラマとトワイライトエクスプレスレプリカの活用について伺います。

(3) 蒸気機関車くろひめ号を走行させることで誘客がさらに増えると思い提案しますがいかがですか、伺います。

(4) フォッサマグナミュージアムと長者ヶ原縄文遺跡の活用について伺います。

(5) 翡翠園・玉翠園・谷村美術館の活用について伺います。

(6) 押上新駅周辺と押上ヒスイ海岸の活用について伺います。

(7) ヒスイ王国館と駅周辺飲食店の活用について伺います。

(8) HAKUBA VALLEYとの観光連携について伺います。

(9) 公共交通の利便性向上について伺います。

(10) 新幹線による観光振興と地域経済の好循環について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、260名の参加があり、ひきこもり状態の方への支援について、正しい理解を広めたものと捉えております。

2点目につきましては、フォーラムに続き、広報でもひきこもりに関する特集を行ったところであり、ひきこもり状態にある方や家族を受け止める環境づくり、相談しやすい体制の構築に取り組んでまいります。

3点目につきましては、今年1月末現在の出生数は、186人となっております。産婦人科医師の確保が課題となっておりますが、市内産婦人科利用促進プロジェクトの取組が評価され、医師2名体制が維持されております。

4点目につきましては、修学資金の貸与が、医師や看護師等の医療人材の確保に成果を上げてい

ると考えております。また、関係機関と連携して、医療系の大学等を訪問し、市の支援体制など、情報提供を行っており、市内就職に結びつくなど一定の成果が得られております。

5 点目につきましては、人口の減少は病院の診療科や医療スタッフの確保に影響を及ぼすものと認識しており、急激な減少を起こさないよう、引き続き減少対策に取り組むとともに、地域医療体制の確保に向けた取組を継続してまいります。

2 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

3 番目の1 点目につきましては、観光戦略における地域資源は重要であると考えております。その拠点が糸魚川の駅であると認識いたしております。

2 点目につきましては、ジオパルでは、鉄道を中心に様々な取組を進めているところであり、トワイライトエクスプレスは、車両内部が非常にリアルに再現されていることから、プレミアム感を出しながら誘客を図りたいと考えております。

3 点目につきましては、車両自体の老朽化が進んでおり、走行するのは断念いたしましたが、しかし、現在、かなり老朽化しとるわけでございますので、一定の整備はしたいと思っております。

4 点目につきましては、ユネスコ世界ジオパークの拠点であり、また、ひすい文化を発信する重要な施設として活用しております。

5 点目につきましては、日本を代表する3 人の巨匠による建築・彫刻・庭園が結集した他に類を見ない施設であり、大切に活用したいと考えております。

6 点目につきましては、地元の熱意により実現した駅であり、地元の皆様と活用について検討してまいります。

7 点目につきましては、糸魚川駅に隣接している駐車場を有し、飲食や土産品が提供できる場所であり、周辺の飲食店とともに来訪者からご利用いただきたいと考えております。

8 点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議やシーフードシャトルバスなどにより、連携を進めているところであり、引き続き広域観光連携を進めてまいります。

9 点目につきましては、糸魚川駅を拠点として地域資源を効率的に巡ることができるバス路線を、鉄道と乗継ぎに配慮し、利便性向上に努めております。

10 点目につきましては、新幹線を使って、多くの皆様からおいでいただくことにより、地域経済の好循環につながるものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。田原議員の2 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、御風宅の大改修や御風の糸魚川帰住・良寛研究百年事業などの取組、さらに早稲田大学へのゆるキャラ訪問により、新たな周知ができたことなどを一定の成果として捉えております。

2点目につきましては、フォッサマグナミュージアムなどで紹介しており、今後も功績の周知に努めてまいります。

3点目につきましては、御風宅は2度、大火で焼失しており、その都度、再建されております。亡くなるまで良寛研究や執筆、作詞など様々な活動に没頭されていたものと考えております。

4点目につきましては、糸魚川小唄保存会とともに今後、検討してまいります。

5点目につきましては、功績を周知する新たな手段の1つとして検討してまいります。

6点目につきましては、隔年で開催している短歌大会、俳句大会を継続し、全国から訪れていただけよう情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域医療の現状と課題です。フォーラムの参加者が260名ですか、多くの市民が関心を持って講師の池上先生のお話を聞き、8050問題やひきこもりの現状と課題を理解し、また、認識を改めたと思います。ひきこもり状態の方への支援について、意識と対応を変えていく必要があるというところの行政の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

ひきこもり状態にある方に対して、当事者を理解し、寄り添いながらも、ともすれば社会との関わりを持つこと、いかに就労、自立することを趣に置きながら、これまで対応してきたのでないかなというふうに考えております。

しかし、ひきこもりにある背景だとか要因については、一人一人異なり、家族全体が孤立の中で苦しみ、声さえ上げることができないでいること、また、ひきこもっている当事者にとって、それが最善の選択であって、当事者も社会と関わりを持ちたいというふうに考えていること、その方に就労を進めるということは、駄目押しの対応であること、一人一人の声に寄り添った生き方支援が求められとる。そういう認識を持たせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

フォーラムに合わせる形で、広報2月号でもひきこもりの悩みを抱えていませんかとして特集が組まれました。この流れは、市長の思いも強くあってということですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

この問題については、デリケートな問題でもありまして、これまで各方面で大きく取り上げてこなかったテーマでしたけども、1月26日の地域医療フォーラムで8050問題を取り上げたことを機に、ひきこもりで孤立し、悩んでおられる方、また、その周りの方に届けたいということで、今回、広報いといがわで特集を行ったところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

子供さんが外に出ていけない当事者の方から、今回の取組に感謝の言葉をいただいています。そのことをこの場でお伝えし、市長に感謝申し上げます。

その上で、課題を掘り下げながら質問を続けます。

市内でひきこもりの悩みを抱えている方は、どのくらいおられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

平成30年に内閣府が公表しました40歳から64歳までの推計につきましては、61万3,000人で、それを基に当市を推計しますと200人程度の方がおられる推計値になりますが、実際の人数については把握をしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これまでの問い合わせや相談の数は、幾らぐらいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市への相談件数であります。昨年度は5件、今年度は14件です。今年度に入り、関係者からの相談でありますとか、情報提供が増えておるということを実感しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長答弁にありました相談しやすい体制の構築について伺います。

広報の4ページ、相談支援の流れに、まずはご相談くださいとありますが、たくさん窓口があっ

て、逆にどこに相談したらいいかわからないと。メールでの問い合わせ先がない。年齢で区分があるのか、ないのか、どうなってるかわからないですね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

相談窓口につきましては、市であれば健康増進課が窓口になります。市に相談したくない方もいらっしゃると思いますので、糸魚川地域振興局、それから、県の相談窓口にご相談していただけるように周知させていただきました。年齢での区分はありませんけども、お話をお聞きした上で、適切な相談窓口におつなぎさせていただいております。

メールでの相談につきましては、タイムリーに回答できないこともあり、掲載しておりませんが、今後、メールでの相談方法についても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

相談対応の仕組みづくりに、相談したい側の意見が入っているかということですよ。問い合わせは今、メールが主になっていますし、電話や施設へ行っての相談は、ハードルが高くなります。それと、相談支援の流れを年齢や担当部署や担当施設で分断しないということですよ。二十歳までしか相談できないという線引きはありませんか。39歳までしか相談できないという線引きはありませんか。あるいは、65歳未満は支援の対象から外れるということはありませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

支援を求めている方については、児童生徒であったり、障害をお持ちであったり、生活困窮であったり、またその家族であったり、年齢や置かれている立場、状況が異なりますので、関係機関、関係部署が、今後の連携を強化して対応しなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

当事者や相談者を行政側の都合で枠に当てはめて、切り刻んでしまわないように、相談と支援の流れが途切れないように、誰が見てるかというところがポイントです。この点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず、健康増進課の保健師が相談を受けることにしており、相談によっては一番適切な部署へつなぐ、または関係部署がチームとして支援を継続するというような対応をしております。今後も引き続き、そのような対応で支援をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

保健師さんから専門の部署と、あるいはチームにつなぐというご答弁でしたが、私、これが一番大事かと思いますが、行政のそれぞれの部署、教育委員会、健康増進課、福祉事務所に相談対応のキーパーソンとなる職員がいるかどうか、相談者や当事者を尊重して寄り添うことができる職員がいるかどうか、その点を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

ひきこもりへの対応につきましては、大変デリケートでケースによって一つ一つ状況が異なります。その当事者や家族を理解して、継続的に支援に携わる、そういう人材、田原議員おっしゃることだと思います。引き続き関係者のスキルアップに努めながら、その支援に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

広報に家族の不安を支える家族会の全国組織が紹介されています。詳細を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

KHJ全国ひきこもり家族会連合会、NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」上越支部を紹介させていただきました。新潟市に拠点を置き、当事者の方が運営しておる団体であります。上越をはじめ、県内6か所で月1回、ひきこもり当事者やその親、家族のための相談会やセミナーを開催しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川に家族会はないのでしょうか。安心して情報を交換したり、学んだりできる場合は、必要だ

と思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現在、当市には家族会というのはございませんけども、同じ悩みを抱える家族が情報交換をする場、その必要性については、十分感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ここで、子供さんが外に出ていけない当事者の市民の方から頂戴したご意見を紹介します。

私の娘は、中学校のときにクラスの男子にからかわれたことがきっかけで不登校になりましたが、高校には進学しました。しかし、アルバイト先で能力以上のことを求められ、挫折し、これが仕事をするものの自信を失う経験となってしまう、カウンセラーの勧めと本人の意思で、精神科で鬱病や発達障害の検査を受け、治療の必要はないと言われましたが、カウンセリングに通っています。そこで発達障害の兆しがあることがわかり、1つのことを続けるのが苦手なのは、そのためではないか。自分以外のひきこもりの人にそういった特性を持つ人が少なからずいるのではないかと本人が語るのを聞き、納得するものがありました。今後は、それが娘の特性で、そういう生きづらさを抱えていると理解し、対処しようと思っています。

私は仕事柄、いろんな家庭に伺いますが、ひきこもっている人が多いことに驚きます。世間は、本人の努力が足りないとか、親に経済力があるから甘やかしているなどの評価をしますが、本人の特性で、外に出て生きづらい人もいる事実を理解してほしいと思います。本人を外に出すことを強制はできません。まず、親が外に出て、親の会などでほかの人の体験を聞いたり、意見交換をすることがよいと思います。まずはそういった場で、定期的に会を開いてほしいです。できれば、働く親の都合に合わせて、夜間や休日にも会を開いてほしいです。本人をそのような会に連れていくのは、その後です。私たち親子のように様々なチャレンジが経験となっていることが、皆さんにもあると思います。それを共有する取組は、役立つと思います。また、ひきこもりの人や親を支援したい方も社会におられると思います。そのような方を集め、支援組織をつくっていただけたらと、私は思いますというご意見です。

この方と会って、お話を聞き、フォーラムの講師のお話を聞き、私なりに考えたことを2つ、提言させていただき、行政の対応を伺いたいと思います。

1つは、家族会や支援者と連携した安心できる居場所づくりです。これは、市町村が手を挙げれば補助を受けられる厚生労働省の支援事業もあるとのことですので、ぜひ取り組んでいただきたい。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

安心できる居場所づくりは、必要なものと考えられます。立上げに最も必要な課題については、運営できる組織づくり、また、人材確保であるというふうに認識しており、当事者の方々の要望もお聞きしながら検討したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

検討して進めるということによろしいんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほど答弁させていただきましたように、必要なものというふうに考えておりますので、検討して、少しでも前に進んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう一つの提案ですけども、当事者及び家族が一方的に支えられるだけの関係でなく、支える側に回れるような社会の仕組みをつくるということです。先頭に立って、ぜひ取り組んでいただきたい。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当事者の方から、経験を生かして支援をいただくということは、支えていただく側にとっても最も望ましいというふうに考えられます。関係する方々からご意見を伺いながら、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民に寄り添う支援を進めていただきたいと思います。

そこで、最後に市民部長に伺いますが、この一連の相談支援事業の行政の責任者はどなたですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

おはようございます。

相談支援業務につきましては、主管課というものについては、今ほど一連答弁したとおり、健康増進課というふうになるというふうに思っておりますけども、生活支援、高齢者の支援という福祉事務所の部門も非常に多く関わってくることから、総括的な責任者ということになれば、私、市民部長になるかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民部長であるとお答えいただきました。期待しております。よろしくお願いいたします。

では、産婦人科の存続について、2回目の質問です。

糸魚川総合病院の分娩数が、200を切ると産婦人科が維持できないと言われてきました。

でも、この先この数字の確保は、難しいんじゃないでしょうか。担当課はどのように分析し、対策を取っていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院の分娩数につきましては、平成30年度は157人で、令和元年度も同じ程度の数字になるというふうに推計しておりますけども、少子化が進行する中で、現在の分娩数を確保する、これについては、大変困難であるというふうに考えております。分娩件数の確保のため、現在行っております市内産婦人科利用促進の取組、これをより効果的に実施していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

いろんな取組を市もしていただいていることは、私わかっております。里帰り出産をしてくださる方を増やす。それから、様々なお祝いの制度、これが非常に好評なんですけども、ただ、分娩数200にこだわらないように、医師派遣元に働きかけるなどの努力も必要かなと思います。いずれにせよ、今後相当なテコ入れをしないと、この先の産婦人科確保は難しいと考えていかなければならないと。

したがって、出産される方やご家族への働きかけを行政からもさらに頑張っていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現在行っております出産奨励金の交付でありますとか、赤ちゃん似顔絵プレゼント、産婦の方への食事サービスなど、糸魚川市で出産することのメリットをさらに周知させていただいて、市内産婦人科の利用を広く呼びかけていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市外で出産する方を呼び戻すという取組ですよ。

それともう一つ、これは提案ですけども、近隣市町村の白馬や小谷へのアプローチとか、産後ケアに力を入れていくとか、糸魚川で出産したいと市外の方に選んでいただく戦略を考え、実行していきませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、有効な手段の1つであるなというふうにお聞かせをいただきました。近隣市町村の方にも、糸魚川の産婦人科利用をしていただくということは、重要であるというふうに考えております。糸魚川で出産するメリットにつきましても、市外にも周知していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひよろしく願いいたします。

市民厚生常任委員会で、1月21日に糸魚川総合病院へ伺い、地域医療の状況を樋口病院長から丁寧な説明をいただきましたが、長期展望に立てば、2030年を見据えて、病棟のダウンサイジングや外来対応の選別は避けられない。そこで専門医療をどこまで残すかが課題とされました。安心して子供を産むには、総合的な医療体制のバックアップも必要です。この点について、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

安心して出産できるためには、産婦人科、小児科といった診療科や妊産婦の救急対応など、出産を支える医療体制の確保というのが必要であります。病院が取り組みます医療スタッフの確保に対する助成や、大学に対し医師派遣の要望を継続するなど、診療科の確保に今後も引き続き努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

総合的な医療体制の確保には、医師、看護師、医療スタッフに糸魚川に定着していただく必要があり、それには糸魚川総合病院から魅力ある医療機関となつていただくことが求められていきます。そのため市の施策について確認したいので、いま一度担当課よりご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

病院の魅力の1つとして、医療スタッフの研修が充実していることも該当すると考えておりますけども、市では、病院の医師、看護師のスキルアップ、資格取得のための研修費への助成を行っております。

また、糸魚川総合病院では、高校生の1日病院体験やインターンシップの受入れを行っており、地元で将来、医療スタッフとして働く人材の確保を目指す取組も行われておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地元で安心して産める医療体制、ぜひとも、これからも取り組んでいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

では、相馬御風顕彰の2回目の質問です。

教育長に伺ひます。相馬御風先生を顕彰する意義、あるいは意味をどうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

糸魚川を語る上で、その生き方も含めて、とても重要な偉人だというふうにつけています。また、大火に複数被災されたり、ひすいの再発見に関わるなど、歴史上でも重要な人物というふうにつけています。そういったことをしっかり世代を超えてつなげていく、それが顕彰の意義だというふうにつけています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

教育長、教育委員会の課長さんは、どのように相馬御風の功績を学んでおられますか。以前、紹介した金子善八郎先生の著書「相馬御風」と相馬御風の著書「良寛さま」、これは皆さん読まれま

したか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

両方読ませていただいております。その中で、金子善八郎先生が書かれた「相馬御風」という著書は、やはり生い立ちから晩年まで詳しく書かれていて、多くの人から手に取って読んでいただきたい本だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

4年間でどのような顕彰事業があり、その成果はどのようなものであったか、担当課に伺います。相馬御風宅の有効活用、歴史民俗資料館の展示、プレゼンテーション、接客談話の工夫、糸魚川市民図書館の展示の改善は、進みましたか。結果として、御風宅、歴史民俗資料館、図書館の入館者数は、増えましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

4年間の実績ということでございますが、昨年6月につきましては、文化協会主催の市民茶会で、御風宅を活用しまして昭和初期の花嫁衣装ミニ展示を行っていただいております。また、3月と11月には、新潟お茶フェスというフェスティバルの会場として利用させていただきました。また、大火後ですが、復興のイベントで活用してきた経緯があります。

今年度につきましては、大火関連の事業でミニ講話を開催いたしました。講話につきましては、消防の職員と当課の学芸員が行ったもので、消防の職員につきましては、大火の振り返り、火災の状況ですとか、鎮火後の状況を映像で振り返ったものでございます。また、学芸員につきましては、大火の復興に合わせて発掘調査を行っておりますので、その発掘調査で出てきた内容の説明と合わせて、御風先生の昭和7年の復興の段階で、糸魚川小唄が御風作詞によって作られた背景などを、そのミニ講話で紹介させていただきました。

糸魚川歴史民俗資料館の展示の内容に関しましては、少しずつですが展示替えを行っているところです。また、来館者にはアンケートを実施しております。そのアンケートを参考にさせていただいて、その都度、来館者への説明等、向上に努めておるところでございます。

図書館の展示の改善という点でございますけども、学習室の御風コーナーをリニューアルさせていただいております。書架の一部分、御風に関する書籍が収められている部分がございます。また、貴重な資料につきましては、別の書棚に収めておるところでございます。

御風宅と糸魚川歴史民俗資料館と図書館の入館者ですが、御風宅と歴史民俗資料館の入館者につ

きましては、増えていないという状況です。

ただ、歴史民俗資料館、御風記念館での企画展に限っていえば、昨年度の企画展より今年度の企画展にご来場していただいた方が多かったと。中でも白嶺高校の授業の中で、生徒からご来館いただいたのが非常によかったなというふうに思っております。企画展の来場者に関していえば、御風顕彰の理解は、深まったのではないかなというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

さきの一般質問でしたか、田中議員が文化施設の観光活用というようなことを触れておられたと思いますけども、全くそのとおりで、糸魚川にあるすばらしい資源としての相馬御風の様々な資料、これをやはりうまくプレゼンテーションして、外部、市外からもお客様を呼び込むという活用をしていただきたいという思いでおりますけども、今後の取組について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

相馬御風宅におきましては、奥土蔵になりますけども、映像を見れる状態にしてございます。なかなか気候の関係もあって、今の段階では非常に寒い場所ではございますけども、とりあえずDVDで、以前テレビで放送していただいた「カチューシャの唄とヒスイの旅」という内容のものを、また、糸魚川町、旧糸魚川市の前進になりますけど旧糸魚川町の火災に遭ったときの移り変わりのDVD、また、相馬御風先生を紹介した「相馬御風のあゆみ」というDVDを御風宅で流したりして、御風の顕彰に今後も努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今、説明されたことを、市外から糸魚川を訪れる人というのは知るすべがないんじゃないかと思うんですね。そこら辺の取組、工夫していただきたいなと思います。

同じく駅周辺の施設をめぐる取組、これ4年前にご答弁いただいたことなんですよ。御風を感じるレトロな町屋めぐりも進めていくということだったんですけども、この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

お答えいたします。

御風宅のリニューアルを平成28年度に実施しております、その完成とともに町屋めぐりの計

画を立て、地図等も作成しておったところでございますが、その直前の12月に大火が発生してしまいました。それで、本町通り等の古い町屋も焼失してしまっておることから、また、焼失してしまいましたけれども、今度復興が、ほぼ完了に向けて進められておりますので、また新たな視点からも復興した町並みをまた見ていただくという面も含めて、関係団体あるいは関係課と調整を進めていき、そのような町めぐりを進めていくようなプランを組み立てていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今お話出ました糸魚川の大火と相馬御風、何か切っても切れないような形ですよ。この大火の歴史と御風の生涯について、もう一度伺いたいんですが、私は、さきの大火から市民が復興していくテーマが、ここにあるのではないかと思います。大火と御風と糸魚川小唄の関係が分かるDVDを作って、御風の関係施設や駅北広場で紹介する形がよいのではないかと考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

先ほどDVDを3つ紹介させていただきましたが、今、田原議員ご指摘の、大火と御風と糸魚川小唄の1本にしたDVDというのはありません。単発でつながっていないという形のものでございますので、その辺の、作れるかどうかというあたりは、今検討させていただきますけども、とりあえず駅北の復興に合わせまして、ご紹介できるようなチラシ等に対応できたらなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大火と御風と糸魚川小唄の関係、もう少し掘り下げて、皆さんもお考えいただきたいと思います。私これ、糸魚川市民が復興していく1つのテーマになっていくと思います。よろしく願いいたします。

もう一つ、御風の生涯と功績をアニメやコミック誌で紹介し、テレビなどのドラマ化を目指してほしいと、以前、担当課に提案したことがあります。いかがですかという、この点、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

御風の生涯について、ドラマ化とかアニメ化ができれば、非常によいことだというふうに考えております。現在、情報収集やドラマ化、アニメ化など、機会をうかがっている状況ではございます。また、御風の周年事業、例えば御風生誕140年とか、そういう事業に合わせて実現できたらいいのではないかなというふうな考えも持っております。

しかしながら、御風の全国的な知名度といたしますか、という面では、かなり難しいところもあるというふうに考えておりますので、合わせて御風の業績を広く周知する取組も検討していき、知名度の向上にも取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

早稲田大学や日本大学の校歌を作詞した人が、知名度が低いんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

失礼しました。知名度が低いという認識は持っておりませんが、全国的な知名度という面では難しいという答えをさせていただきました。

ただ、早稲田大学の校歌を作詞、また、日本大学の校歌を作詞したということでおきましては、非常に大学関係者または大学のスポーツとかで非常に校歌が流れる機会が多ございますので、そういう機会に知名度はあるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

知名度はあると思って、顕彰に取り組んでいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

御風の人生におけるハイライトについては、いろんな考えがあるでしょうが、島村抱月先生に才能を見出され、若干24歳で早稲田の校歌を作詞、その後、女優、松井須磨子さんが歌い、大流行したカチューシャの唄の作詞をし、活躍した時期でしょう。その後、抱月が亡くなり、須磨子が亡くなり、糸魚川へと帰ってくる悲惨な時期とのコントラストは、まさにドラマです。カチューシャの唄は、100年を経て、なお歌い継がれる日本の文化遺産です。知音都市交流先の各都市と早稲田大学に働きかけて、アニメ化、ドラマ化して、次の世代につないでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

田原議員おっしゃるとおり、御風の生涯ではそのころの部分がドラマに向いているのかもしれま

せんけども、先ほどお答えしましたとおり、御風の功績を広く周知する取組は、大変重要だと思っておりますので、アニメ化やドラマ化など、実現できるような取組、または情報収集に努めて、今もそうですけども、機会をうかがってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

機会をうかがってるだけじゃあチャンスは来ないですね。出かけていかないと、求めていかないと。磯野教育次長は、早稲田大学の稲門祭で有名なテレビ局、アナウンサーとのつながりができましたが、それは生かせないんでしょうかね。俳優の角野卓三さんとタレントの篠原ともえさんが出演した御風とひすいを紹介してくれた番組がありましたが、そのテレビ局とのつながりは、生かせないんでしょうかね、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

お答えいたします。

平成29年でしたか10月に稲門祭というOBが主催するイベントに御風さんのゆるキャラを連れて、御風のPRに努めてまいったところでありまして、その際に、稲門合唱祭という早稲田大学の校内にあるホールで行われたイベントにも参加させていただきまして、御風さんをその場で軽部さんの絶妙なトークとともにご紹介いただいたところでもあります。その後の、特に軽部さんとの個人的なつながりはないわけなんですけれども、軽部さんの所属されていたコール・フリーゲルという合唱団が活躍しておりますし、そのOBの団体もありますので、そのような活動の中から、つながりがまたできればいけるんじゃないかというふうに考えております。すぐに実現できるかどうかという答えにはなりませんけれども、そんなきっかけも大切にしていければというふうに考えております。

テレビ局のほうは、取材していただいて、有名なタレントからも出演していただいております。その映像も御風宅のほうで流させていただいておりますので、そういったつながりも生かしていけるように検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

タイミング大事だったと思うんですよね。テレビ局に売り込むチャンスだったんじゃないでしょうか。ちょっと残念な気がします。これからでもいいじゃないですか。ぜひともテレビでドラマ化、できれば朝ドラがいいですね。ぜひお願いしたいと思います。

さて、糸魚川小唄を市内の学校や公民館の行事で踊ることについて、教育委員会に伺いたいと思

います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

糸魚川小唄を歌ったり、踊っていただくことは、御風の顕彰にもつながっていくものというふう
に思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのことをわかって質問してるんですよ。学校や公民館の行事で踊ることについて、積極的に取
り組んだらいかがですかということを伺ってるんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

大変失礼いたしました。糸魚川小唄保存会の皆様が、現在、歌と踊りの伝承に努めておられます
ので、その会の皆様と連携して、市内の学校や公民館などの場で、糸魚川小唄、歌と踊りが伝承で
きる取組に取り組めればというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川小唄、市民の健康増進にも役立つと思います。市で進めている健康体操とセットで、この
糸魚川小唄を復活していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

糸魚川小唄が収録されておりますCD、相馬御風名曲選というものを市内のいろんなところに配
付しております。また、学校等も同じでございますが、そういうものをさまざまな場面で活用して
いただければというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川小唄につきましては、今のところ直接、健康づくりに活用するというのは考えておりませ

んけども、軽運動またはリラックス効果、そういうものが期待できますので、例えば高齢者の教室、こういうことでの活用というのは考えられます。もし、活用するとすれば、そのような形で活用させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。ぜひ取り組んでください。

では、短歌と相馬御風顕彰について、塩尻市、高岡市の短歌の活動とどのようにつながっていくのか。その際、糸魚川が果たす役割は、どのようなことと考えるか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

今、お話に出ました塩尻市と高岡市につきましては、短歌の全国大会などで実績のあります先進的な市だというふうに思っております。当市でも相馬御風顕彰の短歌大会や俳句大会を実施しておりますが、その大会を多くの方から知っていただけるように、さらに塩尻市や高岡市の皆様に対しては、応募を働きかけるなどして、文化面でのつながりを進める必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

先進地の塩尻市民と高岡市民を糸魚川に招いて、短歌大会の開催はいかがでしょうか。短歌と御風で都市交流を進めていただきたい。米田市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

現在、隔年ではございますが、糸魚川市で短歌大会、または俳句大会を実施しております。通常、今年度の場合、俳句大会でございまして、市民会館で開催いたしましたが、例えば市民会館や地域の公民館を利用するのではなくて、短歌の題材となるような場所、例えば市振周辺ですとか、能生の弁天岩周辺など歴史や文化、さらに景観など歌が詠める題材のある場所を会場として開催するというのも1つの工夫だというふうに考えておりますので、その辺をちょっと今後考えてまいりたいと。さらに、その中で塩尻市または高岡市の皆様からもお越しいただける工夫をしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうするとジオパークの景観と短歌と御風がつながって、糸魚川に人を呼び込むことになりすけど、市長、ぜひ進めていただきたいと思いますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

塩尻市とは、現在でも文化や芸術やスポーツ、観光という面で連携した交流を進めております。そういう関係もありまして、できる限り塩尻市の皆様には周知はしてまいりたいというふうに思っておりますし、さらに先進地であります高岡市の方々にも、大会の周知が行き届くようにしてまいりたいというふうに思っています。

開催につきましては、今後の検討だというふうに思っておりますが、糸魚川市で開催しております短歌大会、新年度は短歌大会になりますので、その辺の開催の方法を十分検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、質問の3です。糸魚川駅を拠点とする観光戦略の2回目の質問です。トワイライトエクスプレスの活用について伺います。

現在、東京の六本木の森美術館で展示していますが、これまでどのくらいの入場者で、どんな方がこの展示を見ているのでしょうか。また、糸魚川で展示すれば、どんな人がどのくらいジオパルに来て、どのくらいの経済効果を生み出すか、分析し検討しましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ただいま六本木で展示しておりますトワイライトエクスプレスの展示、特別展につきましては、去る2月25日に10万人を突破したというふうにお聞きしております、改めて広く観光客を引きつける観光資源であるというふうに感じたところでございます。

当市における展示におきましては、経済効果までは算出しておりませんが、六本木では、内部に入ることができませんでしたので、当市に来た際には、特別時には、また中に入ってもらったり、飲食を楽しんでいただくことができないかということで、関係者と調整を行ってるところでございまして、いずれにしても、市内の経済効果、経済循環につなげていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は、この質問のために六本木へ行って、糸魚川での展示について考えてきました。森美術館のように、お客様が満足してリピーターになっていただける展示と対応、お客様からの苦情が生じない展示と対応が、果たして糸魚川でできるか、期待はしますが、心配でもあります。担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

車両の本体はもちろんのこと、車両の内部が非常にリアルに再現されておりまして、ほかでは味わうことのできない体験を提供できるものと考えております。先ほども申しましたが、車内をどういうふうに見せるか、また、車内でどういうことをして楽しんでいただけるかということに関係者と調整を行ってるところでありまして、なるべく特別時には、そういう対応ができるように、広く周知して集客に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

森美術館での展示と日本テレビの報道は、リゾート列車雪月花設計者の川西康之先生からの大きなプレゼントです。糸魚川での展示も、テレビ・マスコミで報道される大きなチャンスです。

しかし、チャンスはピンチでもあります。新しい戦略と対応が求められますが、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このトワイライトエクスプレスの設置によりまして、ジオパルにおけます鉄道関連の展示は、より一層充実することになりますので、糸魚川駅を中心に鉄道関連でございますので、JR西日本ですとか、えちごトキめき鉄道と連携しながら、多くの皆さんから来ていただけますようイベントですとかツアーの商品開発等も含めまして、誘客について対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、谷村美術館について伺います。

先週の日曜日、私は谷村美術館に行った折に静岡から来たご夫婦からバタバタ茶の泡のたて方を尋ねられ、とっさのことでしたが、それなりにバタバタとやっでご覧に入れました。それがきっか

けで、庭づくりが専門というご主人と話が弾み、庭を学びました。美術館を見て、庭を見て、ほっとした気分でバタバタ茶をいただくことができる谷村美術館は、糸魚川固有の文化、バタバタ茶の価値を伝えていく貴重な場所でもあります。ありますが、そうなるためのバタバタ茶のおもてなしの工夫を、さらに重ねていただきたいと思います。この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

バタバタ茶は、糸魚川市の文化の1つということで、非常に貴重なものと考えておりますが、近年、市内におきましてもバタバタ茶を飲める場所が少なくなってきておりまして、この玉翠園の喫茶コーナーにつきましても、飲める場所の1つであるというふうに考えておりますので、また、この喫茶コーナーでバタバタ茶を発信しまして、より一層、ご来館した皆様から、バタバタ茶を楽しんでいただけるような、そういう方法を考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

バタバタ茶の泡が大事なんですよね。あの泡を茶葉の中でバタバタとやって、クリーミーな泡をたくさんたてないとおいしくないですよ。谷村美術館のバタバタ茶飲んだことありますか。もう一工夫欲しいなと思ったんです。それで、谷村美術館でのバタバタ茶をたてている動画、これを市のホームページに上げたらと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

非常におもしろい提案であると思いますし、また、有効だと思いますので、スタッフとまた検討させていただいて、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

HAKUBA VALLEYとの観光連携の現状と課題を担当課に伺います。あわせて、HAKUBA VALLEYへの入込客数、インバウンドの内訳、消費動向など分析してありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

HAKUBA VALLEYとの観光連携につきましては、日本海と山岳リゾートを結ぶ大変重要なものと考えておりました、これまでも北アルプス日本海広域観光連携会議を初め、シーフードシャトルバスの取組によりまして、連携してきたところでございます。今後は、グリーンシーズンを含めた通年観光での連携を進めるために協議をしているところでございます。

HAKUBA VALLEYへのスキー場への昨年度の入込客は約154万人とお聞きしております、そのうちの約4分の1がインバウンドであると把握しております。特に滞在期間の長いオーストラリアの方は、レンタカーによりまして、当市のスキー場や道の駅等にも立ち寄っていただいているとお聞きしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

HAKUBA VALLEYの観光関係の資料を紹介します。

1つは、HAKUBA VALLEY9か所のスキー場の来場者のベース、こちらです。

それともう一つは、HAKUBA VALLEYシーズンパス購入者の国別・居住地別の情報、これは担当課にもお渡ししてありますが、糸魚川の観光の取組と比較して、担当課はどう思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

HAKUBA VALLEYを構成いたします大町市、白馬村、小谷村は、共通するスノーリゾートというテーマの下にHAKUBA VALLEYというブランドを掲げまして一体的な取組を進められており、インバウンドの獲得をはじめ、成果を上げられているものと思っております。

当市におきましても、より広域的な観点に立ちまして、HAKUBA VALLEYエリアにはない、海をキーワードとして連携した取組を進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その点は、大変結構なんですけど、そもそも担当課や関係団体で、HAKUBA VALLEYの現地を見てますか。シーフードシャトルバスに乗っていますか。皆さんからの話を聞いてきていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

白馬村の観光局にはお伺いして、お話を聞いたことがございますし、シーフードシャトルバスに

は、乗ったことはありませんが、発着地で降りてくる方の様子ですとか、お話を聞いておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

観光できるHAKUBA VALLEYのように、毎年、毎月の状況をデータ化し、次の戦略を練る。糸魚川でいえば、新幹線駅を拠点とした周辺観光施設、鉄道ジオラマ、フォッサマグナミュージアム、長者ヶ原縄文遺跡、谷村美術館、ヒスイ海岸、ヒスイ王国館、駅周辺飲食店、HAKUBA VALLEYとの観光連携の状況をデータ化し、常に新しい戦略を考えていますか。どのようなお客様が、どこから何人来て、幾ら消費していくか、駅周辺、観光施設の入込客数、入館料、使用料、飲食代、書籍販売、お土産販売など調査し、まとめてありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内の観光動態につきましては、糸魚川ジオパーク観光動態調査ということで毎年集計をしているところでありますけども、今お話のありました細かなデータにつきましては、まだ不足している部分もございますので、引き続き、DMO法人であります糸魚川市観光協会とも連携しながら、データの収集を進めるとともに各種の取組を進めてまいらなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

必要があるのはわかってるんですよ。やってるかどうかなんです。その点お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

まだ情報の収集ですとか分析で不足している部分が多いでございます。今、市内の宿泊施設でも、また新たな宿泊客のデータもとりに始めているところがございますし、この辺につきましても内容を充実しながら、データの収集・分析を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私が一番気になることは、糸魚川では誰が戦略をつくり、誰が実行し、どのような成果を出したのかわからない。いつ、どこに、どんな人たちがどのくらい観光に来て、それで経済効果が幾らな

のかわからない。地域経済の好循環を生むために、何をどのように改善していこうとしているのかわからない。行政の過去の答弁は、やれベクトル合わせだとか、資源のブラッシュアップだ、地域連携だとおっしゃるが、観光の実態が見えてこないんですよ。これどうしてですかね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今後とも稼げる観光地域づくりを行うためには、DMO法人であります糸魚川市観光協会が観光戦略のかじ取り役になり、進めていく必要があると考えております。それにおきまして、行政は行政の役割を、また、それぞれの事業者は、それぞれの事業者の役割を果たしながら、みんなが一体的になって取り組んでいく必要があると考えておりまして、それを目指して進んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

行政だけでやれるもんじゃないですから、官民連携で役割分担をしていく、これは大事なことですよね。

しかしながら、問題は、観光振興策の責任者が誰なのかわからないということなんですよ。これどうしてでしょうかね、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、観光企画に関する部門につきましては、市の商工観光課で行っておりまして、そのプロモーションですとか誘客宣伝に係る部分につきましても、商工観光課と観光協会、それぞれで行っている部分がございますので、この部分につきましては整理をして、効率的で効果的な観光行政ができるようにしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

HAKUBA VALLEYとの観光連携を進めることで、糸魚川の観光も変わってほしいと私は思います。特に駅周辺施設を生かした観光戦略が重要です。これは大糸線の存続や、えちごトキめき鉄道の利用増大と連なる糸魚川観光の大きな課題と捉えていただきたいと思います、その点を市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川駅を中心としまして、今言われたHAKUBA VALLEY方面に伸びる大糸線、また日本海に沿って走るえちごトキめき鉄道、もちろん北陸新幹線の停車駅でございますので、この新幹線駅を拠点として市内への周遊を高めたり、町なかへの回遊を促す取組によりまして、それによって地域内の経済循環が高まるものと思っておりますし、また高めていかなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の質問で取り上げました鉄道ジオラマとトワイライトエクスプレス、フォッサマグナミュージアムと長者ヶ原縄文遺跡、谷村美術館、押上新駅とヒスイ海岸、ヒスイ王国館と駅周辺飲食店の活用、HAKUBA VALLEYとの観光連携、それをつなぐ公共交通の利便性向上、そしてくるひめ号の走行にも本気で取り組んでいただければとも思います。これらの取組で、多くの観光客を招き入れ、地域経済に好循環を出し、駅北大火からの復興まちづくりを進めていただきたい。いま一度、私からの訴えとさせていただきます。

以上で質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎でございます。

事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、総合計画策定事業の取組について。

清政クラブでは、夏に長野県飯田市のいいだ未来デザイン2028、いわゆる飯田市総合計画について調査してきました。その中の1つに、地域人教育による人材サイクルの構築では、地域人教育を受けた若い人の人生設計において、地域を学び、地域に愛着を持った若者は、高校を卒業しても地域との関係を持ち続け、やがて子育て世代になる頃には、自分の子供は自分のふるさとで育てたいと考えて帰郷し、地域を担う人材となる。その子供たちも地域人教育を受け、一旦はこの地を離れても、子育て世代になる頃には帰ってくる。こうした人材サイクルが構築されることで、地域には子供たちから年配者まで、多世代が住み続け、持続可能な地域が創出されるとあります。

いろいろまだありますが、そこで以下、項目によりお伺いいたします。

(1) 従来の総合計画における取組状況と目標設定項目の進捗状況及び問題点について伺います。

(2) 策定スケジュールについて伺います。

(3) 策定方針について、以下伺います。

- ① 位置づけと背景。
- ② 基本方針。
 - ア 構成と計画の期間。
 - イ 策定の視点と策定作業期間。
- ③ 策定の作業概要。
- ④ 策定体制。
- ⑤ 年度別策定作業。

(4) デザイン思考的アプローチによる地域づくりが今こそ必要であり、それぞれがアイデアを出し合って互いに評価し、議論し、意識の共有化を図って、計画に結びつけていく「共創の場」の創出が糸魚川市に最も必要なことであるが、どう考えるか伺います。

(5) 地域の皆さん一人一人の知恵と力を結集させて「糸魚川の未来づくり」にみんなでチャレンジしていくための計画（行動指針）として策定すべきと思うが、どう考えるか伺います。

(6) 戦略計画による効果的な事業の立案について伺います。

(7) 分野別計画と外部評価（市民会議・議会）の取入れについて伺います。

(8) 進行管理の考え方について伺います。

(9) 糸魚川市としての特徴的・先進的な取組をいかに策定するか伺います。

2 番目といたしまして、第 2 期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」重点戦略事業（チャレンジ事業）について。

(1) 新たな全世代・全員活躍型の推進強化について、先進地自治体の取組を参考にしているかが伺います。

(2) 少子化対策（糸魚川で産み、育てるなど）の具体的な取組について伺います。

(3) 稼ぐ地域産業を育てるまちづくり（リノベーションまちづくり、創業支援体制の強化）について、新たな取組について伺います。

(4) 糸魚川版DMOの強化策について伺います。

- ① 広域な「面」で地域をブランディングしていく必要があるが、どう考えるか伺います。
- ② ターゲットの中心軸と地域のストーリー、価値、クオリティを持続可能な形にするのがDMOの役割だと思うが、どう考えるか伺います。

以上で、1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、目標達成に向け、おおむね順調に推移いたしておりますが、人口減少問題に関する指標などにおいて、達成が困難なものも見られることから、引き続き、事業の推進に努めてまいります。

2 点目につきましては、2 年度から 3 年度にかけて策定作業を予定いたしております。

3 点目につきましては、人口減少問題を中心とした諸課題を克服すべく、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの理念も取り入れ、本市のまちづくりの基本指針となる最上位計画として策定します。

なお、計画期間は4年度からの7年間とする予定であります。

4 点目及び5 点目につきましては、広く市民の声を計画に取り入れるとともに審議会などを通じて各分野からのご意見をお聞きし、本市の課題解決に向けた検討を行ってまいります。

また、計画の実施に当たっては、官民協働による取組を推進してまいります。

6 点目から9 点目までにつきましては、これまでの成果を検証する中で先進事例の研究もを行い、より効果的な事業の推進に向けた検討を進めてまいります。

2 番目の1 点目につきましては、先進自治体等の取組も参考にしながら取り組んでまいります。

2 点目につきましては、妊娠アシスト事業など、妊娠・出産に係る環境整備や子ども医療費助成事業など、子育て支援の取組を充実してまいります。

3 点目につきましては、創業塾やリノベーションスクール、創業支援制度等の成果を見ながら、地域産業を担う人材育成に取り組んでまいります。

4 点目の1 つ目につきましては、DMO法人である糸魚川市観光協会を中心に、北アルプス日本海広域観光連携会議などによる広域的なプロモーションを行っております。

2 つ目につきましては、食や体験、景観などの観光素材を、そのストーリーや販売方法を含めて総合的にマネジメントし、持続可能な観光地域づくりを行っていくことが、DMOの役割であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。順番がいろいろ飛ぶかわかりませんが、よろしくお願いいたします。

いいだ未来デザイン2028は、4年ごとで戦略的な重点的に取り組むテーマを基本目標として、特徴を生かす進行管理をやってるんですが、進行管理を通じて工夫の改革や100人の一歩を起るようにするというので、毎年、戦略計画を立てながらビジョン実現に向かっておりますが、今回の総合計画、糸魚川市の総合計画では、どういう形でやっていかれるのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

第3次、次の総合計画につきましては、まだ詳細は、具体的なこういう手順でということ、これから詰めていく必要があると思っておりますけども、今現在は、基本構想、基本計画、それで実施計画事業という形で、実施計画事業につきましては、3年先を見据えた中で1年ごとに状況は変わっ

てまいりますので、見直しをしながら進めていくという取組にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

飯田市は、地域コミュニティ並びに地域自治組織、公民館がしっかりしていて、地域づくりプランというか地域振興計画が20地区ですかあって、下からのボトムアップ、それがすばらしいんですが、その辺について、やっぱり下がしっかりしないことには、根っこって誰か言ってますけど、根っこが大切だと言われとる。そこから盛り上がるような形をとっていかないと、本当に総合計画にならないと、こう思っているんですが、その辺も踏まえてどう考えていくか、糸魚川市、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

飯田市につきましては、私ども職員で視察に伺わせていただいて、状況を聞かせていただいとるんです。私たちの視点は、総合計画という視点で行ったのではなくて、地域自治の取組を学びたいというところで先進地を見せていただいたんですが、まず、飯田市の基本というのは、まず市長の考え方が非常に強くて、やっぱり地域コミュニティ、いわゆる地域が、パソコンでいうとOSの働きをする。やっぱり基盤だと。それぞれの20の地域の基盤がしっかりしてないと、幾ら政策というアプリを打ってもだめだ。この考え方が、はっきりしているというのは分かってきました。そういったところで、地域、飯田市の場合は20の自治組織ということになっておるんですが、そこら辺の体制というのは、しっかり地域住民とのコミュニティ、ボトムアップで意見を取り入れていくという仕組みがはっきりしてるなというのが分かってるところです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

総合計画は、下から、先ほども申し上げましたように、今、糸魚川市では地域プランを各地区でつくられとるんですが、それらを今どのぐらい、何地区あって、どのぐらいできているのか、それも教えてもらいたいんですが、やっぱりそこから盛り上げていって、総合計画が必要になってくると思うんですが、その辺の感覚でいくとどういう形でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

糸魚川市の地域づくりプランにつきましては、現在13地区、公民館エリアに行きますと21エ

リアになるんですけども、そのうちの13エリア、最近ですと田沢地区ですとか小泊地区というのが出てきておりますので、今13地区になっております。やはり地域づくりプランをつくるというのは、私の持論ですけども、やっぱり地域価値の共有していると。その価値の現れるというのが、こういうプランとして上がってくるのかなというふうに思っておりますので、やはり地域として何が大切なのか、どこを守りたいのか、そういったところの価値観が出てきてるといってもありますので、ぜひやっぱりそういった動きというのは、これからますます大切になってくるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ下から盛り上げていって、ぜひとも1年ごとの戦略計画を立てながら、総合計画を1年ごとに見直していくというパターンで、ぜひともやっていただきたいんですが、その辺は飯田市はやれとるんですが、それで項目を絞りながらやっていくんですが、その辺の考え方はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

飯田市のいいだ未来デザイン2028、見せていただきました。それとあと戦略計画、戦略計画というのは、1年単位で見直していきますので、糸魚川市でいえば実施計画と同等なのかなというふうに思っておりますので、計画は、たしか12年スパンでつくってたので、糸魚川市は7年で改定するというのが基本ラインで今進めてるんですけども、やはり基本構想というのは非常に長いんですけども、その中で実施計画で戦略的計画という言い方をされますが、1年ごとで見直していくというのは、そこらは糸魚川市と同じだと思いますので、そこら辺の状況が変わったときに、機動的にできる。

ただし、いわゆる基本構想に沿った都市像ですとか、基本的なラインというのは変えない中で、その時代に合った流れというのは、対応できるような仕組みはつくっていかなくちゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

実施計画見させてもらおうと、令和1年と2年にかけて総合計画つくるということで、アンケート調査もやられるということなんですが、このアンケート、どのような形をとっていくのか、その辺、飯田市は中・高校生も含めた中でのアンケート調査、それで市外からアンケートも含めた中で、取りながらどう総合計画に対応するかも考えながらやるんですけども、糸魚川市としては、どうやっていく、調査をやっていくつもりなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

これからの取組につきましては、今この場ではちょっと申し上げることはできないんですが、前回の第2次総合計画のアンケートにつきましては、たしか中学生からの意見と、あと市民の皆さんの意見ということで、たしかつくっておりますので、議員の言われる市外の方の意見というのも非常に大事だと思うんです。やっぱりふるさとを思う市民の方、意見というのもいろんな思いはあると思いますので、また、そこら辺も今の糸魚川の置かれてる立場を見ていただいて、逆に応援していただけるようなものができればというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

前は中学対象にアンケートをやっていた。ぜひ20回目の教育懇談会あったら、高校生の意見も含めて、ぜひ取っていただきたい。小学生も含めて、子ども糸魚川づくり会議、それでアイデアや提案を、10年後どうしたいんだという子供の振興計画というのもぜひやっていただきたいと、こう思うんですが、その辺含めてどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、議員の言われた子供のところということになりますけども、総合計画は、各種個別計画の最上位計画になるんですけども、その下のほうには、各個別計画というのがあると思うんですね、健康といがわ21、福祉計画、子ども一貫教育基本計画と。そういった分野分野の、例えば子供であれば、子ども一貫教育計画の中で、そこら辺ターゲットを絞ったアンケートですとか取組ですとか、そういったところをうたいながら、最上位計画には反映していかなきゃいけないんですけども、まず細かいところになりますと、そういった分野分野のターゲットを当てていくというやり方もあるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういうのも取り入れてやっていただきたい。それで、加藤年紀さんの本で、「なぜ彼らは『お役所仕事』を変えられたのか?」、常識、前例、慣習を打破する仕事術の中で、一番最初に出てくるのが、塩尻市の山田地方創生推進係長の中で、大企業と研修プログラムを開発し、関係人口を増やす、大手のコンサルに総合計画を丸投げしてやるのではなく、本当にこれは2年かけて塩尻は、塩尻のありたい姿を市民や専門家も含めて、それと大企業の方々と、研修、二泊三日で行うんですが、そういう課題解決案を考える合宿として二泊三日でやるところもあるんですが、5回

目になるんですが。そういう形の企業とか、中小企業でもいいんですが、糸魚川におられる企業でもいいですし、ちょっと見方を変えて、本当に大企業の方、糸魚川をどう見とるんか等含めて、そういう形のアンケートだけでなく、本当の生の声を、提案して、今度はそれが、課題解決策を市長に直接プレゼンをして、もしそれでよけりゃ予算化されるということを塩尻はやってるんですね。ぜひそういうのも含めて、市外の方々、世界の方が糸魚川をどう見とるかぐらい、本当に考えていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

アンケートだけではなくて、いろんな市外の企業の方からの意見もという視点であると思いますけども、やっぱり糸魚川のこの中だけではなくて、やっぱり広くグローバルな視点というのは、当然必要であるというふうに思っております。やっぱりそうなるが一番大事なのは、糸魚川と首都圏とかのつながりということに行きますよね。そうなるやっぱり糸魚川市出身者会の皆様ですとか、いろいろな首都圏での、ジオパークも含めてなんですけども、つながり、そういったところを生かしながら、いろんな、今糸魚川の置かれている立場を見ていただきながら、いい策があれば、やっぱりそういったものは耳を傾けていくという姿勢は大事であるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ観点を変えて、見方を変えて、いろいろな形で糸魚川をどう見てるんかも含めて、ぜひやっていただきたいなと思っております。

それと、財政の話はここでは聞きませんが、行財政の出前講座をやると、対話型自治体経営シミュレーションゲーム、SIM2030、2030年をどうやるかという、5年ごとに起こる様々な課題に対して6人で1つのチームで仮想自治体、これ糸魚川に置きかえて、部長級職員を、普通の係長とかそういうがは、はい部長になったつもりで、糸魚川のありたい姿を考えて、制限時間内でチーム内で対話に基づく政策選択を行って、判断を積み重ねていく対話型シミュレーションゲーム、ゲームなんですよね。だけん、あらかじめ手持ちのカードをまだ見せてないんですけど、そういうのが出てきたときに、この課題はどうすればいいか、子育て、少子化対策をどうすればいいか。カードは伏せといて、出たときにシミュレーションゲームをしながら提案していく形なんですけど、こういうやっぱり自治体の職員の研修ではあるかもわかりませんが、こういうのを職員だけでなく、市民も含めてどうやっていけば、糸魚川残っていくかぐらいを含めて、そういうゲームを通した若手職員、それと企業や市民を巻き込んだ中で一緒にできるようなゲーム方式、私やっぱり必要だと思うんですよ。

この前、教育懇談会で本当に高校生を入れて懇談会やりましたですよ。あの中の高校生のすばらしさ、そういうのをどんどん、どんどん上げていって、提案していただけるような仕組みづくり、企業も巻き込んでやられた、あれを教育界だけでなく、いろいろな形で分野ごとにやっていくよう

な形っちゃ、私は必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

あと市民の多くの年代の声を聞くというのは、行政でよくやる手段なんですね。大体、こういうテーマについて説明会ですとか意見を聞いて、さあどうですかというのが、今までのスタイルだったと思うんですね。それが決して悪いとは言いませんよ。否定はいたしませんけども、今、議員が言われた福岡シミュレーション2030、実は私もそれに参加しました。糸魚川市の市民会館で実践いたしました。そのときに確かに突然リアルな、1つは財政のテーマになるんですけども、これをやるにはどれを削る、どうするという、もう切羽詰まった、境界上がれて非常に、ワークショップとは違う、非常に熱くなるゲームだったのかなというふうに思っております。そういった中でも、やっぱり住民の皆さんの対話、それから、納得、説明、こういったところがないとなかなか難しいというのが、その場で私が感じているところでもありますので、それも1つのいろんな意見を聞いた、住民の皆さんに知っていただいて、どう判断するか、どう自分が参加できるのか、そういうツールにはなるというふうに非常に思っていました。

こないだ開かれた教育懇談会のワークショップ、それも1つの手法だと思いますので、やっぱりやり方はこれっていうものは、1つに限られたことじゃないと思います。いろんなやっぱりやり方あると思います。そういった中で、いかに自分ごととして考えていただけるか、そういった取組は必要なんだろうけども、何をやっていいかというのはちょっとお答えできないんですけども、そういった手法は、取り入れていかなければいけないなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういういろいろな手法があると思うんですね。全国的に見たりすれば、それも含めて、単なるアンケートを集計して、分析して、総合計画、審議会にかけるだけじゃ、私は駄目だと思う。いろいろな方々から糸魚川をどう考えとるかも含めて、どう提案、提言をいただきながらまとめていくような総合計画であってほしいと思いますし、進行管理の中で、市民会議と議会も含めて外部評価をやってるんですが、飯田市では、市側の説明が7月から9月にかけて行われて、市のほうから。内部評価をまとめたのを7月から9月にまとめて、議会に評価をいただけるんです。議会による評価、で市民による評価も含めて、9月の市議会決算審査で、この決算審査で提言書を議会がまとめるんです。市民からも評価をいただくような方式、私はそのぐらい決算も必要だと思うので、ぜひそういうのも含めて、ぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

総合計画につきましては、総合計画の審議会という附属機関がありますので、そこでの検証をしながら、どこが弱くて、どこがいいとかという、そういった検証はいたしますけれども、やっぱりこの今、総合計画ですので、糸魚川市全体の取組になります。今、事務事業評価でも担当者レベル、それから係長、それから行政評価という形で進んできているんですけども、もうちょっとマネジメントの仕組みというのは、これから策定する総合計画に当たって、どう検証していくかという、そのマネジメントサイクルは、いろんな他市の状況とか、いろんな取組を見ながら研究していかなくちゃいけないというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ今の振り返りも含めて、それを構想、基本計画から未来デザインへ変えていくような、未来のデザインを、7年後ですか、やっていくような。新たな戦略策定と実践に投入していただきたい。実践も伴わなきゃ駄目なんで、同時に戦略計画を立てながら、実践のほうへ。ただ計画やって、ただ行った、どうだった。それをプラスに持っていかなんやんで、その深化、深いことも考えながら、ぜひ実践に結びつけていただきたいと思うんですが、その辺も含めて、現場の発想と横断的な発想、それが共創の場ということで、ともにつくるほうの場に持っていかなければならない。それと、戦略計画を立てていくべきだと、こう思っております。

それで、飯田の未来づくりに求められる組織の姿、職員の姿も含めて、現場も含めて、全体を考えながらやっていただきたい。ぜひ同じ総合計画つくるんなら、昔とか前までつくってたのを変えて、既成概念を乗り越えるしなやかな現場力が、今こそ必要な組織ではないかと考えてるんですが、その辺も含めてどうつくっていくか、今の考えを教えてくださいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり総合計画の実践、戦略的な実践、計画づくりから実践というふうに議員がおっしゃると思うんですけども、やっぱり活動指標で、何をやった、何回やったではなくて、今一番求められているのは、KPI（key performance indicator）、いわゆる成果、やってどうなったのか、どう変わったのか、この成果なんですね。成果主義といいます。そういったところで、今の総合計画の中でもそういった成果というところを求めておりますので、引き続き、やっぱり活動で何回やった、アプローチした。それも大事なんですけども、一番の究極は、何が変わったんだ、どうなったんだ、そこが言えるようなものにしていかなくちゃいけないですし、やっぱり職員もそこら辺のところを意識してやっていかなくちゃいけないと思っています。

ただ、実施計画なり総合計画をつくって、進んでるんですけども、実際、自分の立ち位置、職員の立場ですけども、自分の立ち位置として、どこにこう動いてるとか、どこにこう自分のやっている業務が当たっているのか、そこら辺のところ、つなぎというのは、これから組織のほうの体制ですかね。そういったところでも考えながら、つくっていかなくちゃいけないというふうに思っております。

す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

昨日、山本議員も言われた高校の最終志願状況、それも見てびっくりしたんですが、糸魚川高校、白嶺高校、大分少ないと。私は、そこからも危機感を持って、ぜひ総合計画に当たっていただきたい、こう思っております。それで、岡山県奈義町、これも内閣府行ったときにいろいろな形でやっとなつたんですが、SDGsも含めて推進と連携で、今回も総合計画には入れていくということを聞いているんですが、その辺も含めてどう対応していくか、お伺いしたいと思いますけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

持続可能な開発目標、SDGsのお尋ねだと思うんですが、今、第2次総合計画で都市像でございますよね、「さわやか すこやか 輝きのまち」という未来の交流都市と、これもありがたい姿だと思うんですが、議員、基本方針で何でしょうか。30年先、持続可能なまちづくりが、今の糸魚川市の基本方針で総合計画はつくってあるんですね。一番課題として工夫しなきゃいけないのが、人口減少対策、人口減少社会の対応ということになっておりますので、やっぱり持続可能性というのは、非常に大事なことだと思いますし、SDGsは、もう国連で、世界的な取組になってきてる。しかも17の目標ということになっておりますので、それが総合計画の中の指標をやるときに、この仕事がどこのSDGsの項目につながっていくのかというようなアプローチもしながら、じゃあ自分の立ち位置の仕事が、どこの17の項目のどこへつながっているのか、そんな認識をしながら総合計画の組立ても含めて、考えていきたい思います。

○議長（中村 実君）

五十嵐議員の質問の途中ではありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

午前中はありがとうございました。

総合計画で、未来の地域づくりは、デザイン思考的であるべき、想像力と創造性を巡らせて、人の感性に訴える地域づくり、訪れる人に感動を与え、そこに住む人が誇りを持つということで、事業、構想力の研究の中で、新しい価値創造のためには、むしろ異質人材の集団を意識的に形成することが望ましいと言われております。さらに磨きをかけ、持続可能性を追求する糸魚川地域として、全国モデルにしてほしいと思ひまして、次に移らせていただきます。

総合戦略の関係のほうで、最初は3番目の稼ぐ地域産業のほうでなんですが、静岡県熱海市が、熱海リノベーションまちづくり構想検討委員会、これは毎回100人ぐらい集まって、2カ月に1回ぐらい、2016年からやっております。創業支援プログラム99℃ということで、企業が次々と生まれ育つエコシステムづくりを目指してるということで、熱海が大分、観光客が来なくなって、今度はどうするかということで考え出して、世界から選ばれるまち、地域の食文化、良質な食のコンテンツ、食文化も含めてかなりいろいろな形でやっておられるということで、ぜひそういう形も含めて、暮らし方の多様性、全体を考えながらやっていっていただきたいと。

産業は全て網羅されるんですが、その中で、私も何回か一般質問でやらせてもらってる中で、f-Biz、産業振興センターを含めて、小出さんて方が本を何冊か出してる中で、富士市並びに岡崎市、いろいろなところで今、全国19か所、開設準備中の施設を入れて24か所、Biz、f-Biz、OKa-Bizを含めてやられとると。各Bizのセンター長の募集には、常に150人以上の希望者が、全国からやってくるそうです。ぜひその辺も含めて、産業振興センターを糸魚川につくっていただきたいと思ってるのですが、一般質問の回答では、今、商工会議所が移転に伴って検討するという回答なんですが、商工会議所が中心ではなく、ぜひ行政が主になっていただきたいと言われとるんですが、商工会議所、商工会ではなく、行政が腹をくくるかどうかにかかると言われております。その辺も含めて、チャレンジする中小企業、小規模事業者、個人事業主、農家、漁業も含めて、林業、それらを増やすこと、もうかる会社にすることで、地元経済は潤って、雇用が生まれ、地域は持続的に活性化するようにということで、やっぱり人だと思ふんで、人を雇うかどうか、その辺を含めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

f-Bizと中小企業ですとか産業支援の施設につきましては、今、議員おっしゃるように全国で幾つか設置されてるところでございます。当市におきましては、商工会議所、商工会の経営指導員がコーディネーター役を務めておるところでありますけども、新潟産業創造機構ですとか、創業支援ネットワークの中でも、相談体制がつけられておひまして、Bizは有効であることは、間違いのないと思ひますが、現在、商工会議所と市で、糸魚川産業創造プラットフォームの事業を取り組んでおります。このような取組の中から、ニーズが高まってきた段階で検討されるべきものというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

県議会でも、産業、稼ぐ構造へということで、今回、付加価値の高い産業構造への転換が必要ということで、2020年度は成長分野などを重点的に支援し、本県の稼ぐ力を高めるということ、IT企業誘致とか、防災関連産業の集積とか5G、移動通信システムなどを活用したビジネス創出など、成長を意識した取組を多く盛り込んだ。県は、それでいいと思うんですが、糸魚川市がやっぱり人口減を含めて、少子化対策も含めて、私は働く場、雇用を増やさないとには、駄目だと思いますし、ぜひ今、北陸発で氷見市が取り組んでるということで、センター長公募を含めてやられて、それがちょっとどうなったか、ホームページ見てもわからないんですが。副市長を雇ったみたいなんで、それはHimi-Bizも含めて、年収が1,200万、ほとんどの24か所ある中で、ほとんどがセンター長は1,200万、年収1,200万で市が契約しとるということを知っております。その辺でやっぱり商工会議所と商工会とか関係なく、やっぱり行政が腹をくくつかどうかによって決まってくると思うんで、雇用創出、産業振興も含めて、全体の指導的立場、コンサルティングをできるのは、やっぱり人だと思うんで、全国公募、その辺も含めて、市長、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、やはりまちづくり、また地域づくり、いろんな面で一番はやはり人だと思っております。いかにいい人材がなければ、物は動かない、人は動かないと思っております。非常に難しく、募集しても来るかという、やはりその辺が一番不安であります。今まで幾度となく、いろんな人材を求めてまいっておるわけですが、問題解決してないのは、やはりそれにぴったり合う人材がいなかったのだらうと思うし、また、糸魚川の町として、糸魚川の市として、やはり個性豊かなるがゆえに、なかなかほかと同じような解決方法ではなかなか難しいのだらうと思っております。その辺をどのようにしていけばいいか、当然、市だけではできないものではございませんので、商工会、商工会議所とやはり連携をとりながら、進めていかなくてはいけないのだらうと思っております。そのようなことで、当然、行政だけでできるものであれば、非常に我々といましては、スムーズに動けるものだと思っております。そういったところ、先進地をもう一度検証させていただきながら、その辺についても進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に人だと思うので、官民連携して、福岡の壱岐市、これは島なんですけど、これにセンター長募集して、391人が全国から来たそうです。その中から1人選ぶんですから、すごい方々も来てるんで、これは元リクルート出身の社員とか聞いておりますし、埼玉県の狭山、Say-a-Biz、これは295人が全国から来たそうです。ぜひ募集すれば、どんだけ来るかわかりません

けど、そういう中から選んでどうするか、すごい人が来ると思う。金だけでないですけどね。そのぐらいやっぱり糸魚川だけの範囲を見るのではなく、上越からも白馬、小谷からも相談に訪れるような形をぜひ、市長言われたように、ぜひ先進地探って、ぜひとも募集をかけていただきたいなど、こう思っております。

それと次、少子高齢化、少子化対策、これは先ほど岡山県の奈義町、これはいろいろな形で本に出てくるんですが、一番目にある全世代全員参加型の中でも仕事コンビニ、仕事コンビニでも出てくるんですが、仕事があるからこそ、子育て支援も手厚いと。子供がいっぱいおる。そん中で、子育て応援宣言を奈義町はやってるんですが、糸魚川市もいろいろやとるんですが、幅広い独自の施策の中で、託児・育児支援手当、高校等就労支援、いろいろな形で、就業支援ですね。それも含めて、ワクチン接種とか、ノロウイルスワクチン、いろいろな形で、昨日もありました不妊治療、妊娠したらいろいろな形も出てくる。手当、医療費助成、給付、保育園、幼稚園も含めて、預かり保育とか保育料、多子軽減とかいろいろ出てくるんですが、この辺も含めて、糸魚川市もうちょっと何か、子育て支援をやるんだから、何かを削るといふか、そういう形も私は必要だと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり選択と集中という形になってきますと、やはりどこかを目指すも全てできるものではございませんので、絞り込んだときには、少し遅れていく部分や後回しになる部分も出てくるものもあるかと思うわけでありますが、しかし、それが最優先という形になれば、また致し方ないことではなかろうかと思うわけでございますので、なるべく将来に禍根を残さないように、またつけを回さないように施策をつくりながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ少子化対策、本当に頑張っていたきたいと思ひますし、もう一点が、DMO、これは本当に雪国観光圏へ行ってまいりましたが、糸魚川には観光地がないと言われました。それにぜひストーリー性をつくって、ターゲットを絞って、ブランディングもして、北アルプス連携でやっていただきたいと、こう思ひまして、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1番目は、市勢の現状と新たな未来社会 S o c i e t y 5 . 0 への対応についてであります。

合併から15年、この間、世界情勢が目まぐるしく変化し、社会の不透明感が増す中、気候変動など自然現象も重なり、平穏な暮らしを維持することも難しい時代を迎えております。

これからの糸魚川市は、国が提唱する新たな未来社会である S o c i e t y 5 . 0 に対応して、A I 、 I o T 、 R P A などの活用で、市民に向けて安心・安全な暮らしの道筋を示し、課題を一つ一つ丁寧に解決していく必要があります。

そこで、今回は今後の新たな視点からの取組を期待し、目標とする都市像に込めた想い、そして将来指標を可能にするために、市勢の現状を踏まえ、今後の市政の進め方を伺います。

(1) 各種のランキングから見る糸魚川市の現状についてであります。

昨年度の全国各市町村の住みよさランキングや魅力度ランキングなどが、各種調査機関から発表されております。当市が上位にランクされている調査もありますが、実態としてどのように捉え、分析しているか伺います。

(2) 行政の仕組みと仕事の在り方についてであります。

各種の行政課題を解決するには、未来社会の機能を駆使しての行政運営が必要であり、そのための体制も必要と考えるが、現状の仕組み、仕事の在り方はこれでいいのか、改善、見直しなどについて伺います。

(3) 未来社会 S o c i e t y 5 . 0 への具体的な対応についてであります。

日本の再興戦略として、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、生き生きと快適に暮らすことのできる社会、 S o c i e t y 5 . 0 の国の目標に対し、当市がどのように捉え、進めようとしているのか伺います。

2番目は、市民憲章、各種宣言の役割と推進についてであります。

昨年の新語・流行語大賞の年間大賞を受賞したのは、ラグビー日本代表チームの「ワンチーム」でした。どんな強豪チームでも選手たちの思い、心が1つにならなければチームとして機能しないということから、ヘッドコーチが掲げたテーマでした。

当市の市民憲章でも、「市民の心を1つにし、みんなで力を合わせる」という制定の趣旨、解説があります。

この市民憲章を初め、各種の宣言が市民の間に浸透し、ワンチームの醸成をはじめ、いろんな面で機能しているかどうか、社会的な役割と推進について伺います。

(1) 市民憲章についてであります。

平成20年に制定され、10年以上経過した現在、主に公共施設の入り口や会議室などに掲示されておりますが、市民の身近な存在として、市民の心構え、心のよりどころとなる市民憲章にまで成長しているのかどうか、今後の活用や普及の方法について伺います。

(2) その他の各種宣言や活動についてであります。

合併後、はつらつ健康都市宣言、生き生きスポーツ都市宣言、糸魚川市平和都市宣言、糸魚川地酒で乾杯宣言など宣言されておりますが、宣言は外部に対して広く表明することである

ことから、宣言によりどのような効果が生まれたか、また市民に定着しているか伺います。

(3) 市歌の制作と制定についてであります。

全国各地では市歌が制定され、愛唱されているところも多いことから、合併15年の節目に当市でも市歌を制定してはいかがでしょうか。市を描いた詞とイメージした曲で構成した市歌ができれば、一体性醸成はもとより糸魚川市の誇りにもなります。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、一概に言えない部分はあると承知しておりますが、これまで取り組んできた成果が現れているものと考えております。

2点目につきましては、AIやRPAなど新たなデジタル技術を積極的に活用し、自動化や省力化を図ることで、より少ない職員で効率的な事務を進める必要があると考えております。

3点目につきましては、官民それぞれで進めていく内容だと認識しておりますが、市として技術革新により、市民生活が豊かになることについては、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、市民の心構えや心のよりどころとなる市民憲章は、当市にとって大変大切なものであり、先人が築き上げたふるさとをさらに発展させるため、市の行事等での唱和や次世代を担う子供たちへの普及活動を通じて、みんなに愛される住みよいまちづくりを目指してまいります。

2点目につきましては、平和の尊さを実感したり、地酒のよさを再確認したりと一定の効果があらわれたものと認識しており、今後もそれぞれの宣言の理念が、さらに深まっていくよう市民の皆様とともに進めてまいります。

3点目につきましては、現時点では制定を考えておりませんが、当市には、すばらしい地域資源やお互いを尊重し合う多様性を表現する、おまんたばやしをはじめ、相馬御風作詞の春よ来いや、カチューシャの唄、さらには親知らず子知らずや大糸線など、当地域にちなんだ名曲が数多くあることから、まずはこれらを活用し、一体性の醸成やPRに努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それでは、1番目の各種のランキングから見る糸魚川市の現状についてお伺いしたいと思います。

昨年の住みよさランキングで、全国812市区の中で32位という高い位置につけておりますけれども、今回のランクに関して再度お聞きしますが、どのような感想をお持ちでしょうか。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

住みよさランキングで全国812の市がある中で、昨年より大幅に順位を上げているというところでもあります。これはやっぱり糸魚川市の取組というのが、評価されたというふうに思っておりますけれども、ただ、これで満足しては駄目だなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この調査ランキングを見ますと、安心度で77位、利便度で266位、快適度で173位、富裕度で365位、この5項目の総合ランキングで32位ということなんですけれども、この各項目ごとに関して、何か特別ご感想をお持ちでありましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

それぞれこのランキングに当たっては、いろんなやっぱり分野の要素があるというふうに思っております。この安心度、利便度、快適度、富裕度と、この指標なんですけど、ランクを上げた1つの要因とすれば、前年と指標のとり方がちょっと変わってるというところが特徴なのかなというふうに思っております。その中で、糸魚川市がどのように評価をされているのかなというところの分析になりますけれども、1つは安心度、昨年は565位から議員の言われた77位と、非常にジャンプアップして、その分析というのは、特に子供の医療費の助成、ゼロから18まで、非常に子育てのところに充実している。こういった評価が入ったというのが、高く順位を上げている要因かなというふうに思っておりますし、利便度では、654位から260位、こちらも非常にジャンプアップしております。その要因等分析していきますと、新たに人口当たりの飲食店の数というのも、こういうふうに加わってきますので、具体的なちょっと、ところは言えないんですけども、そこら辺の順位というのが加わったのが成果かなというふうに思っておりますし、快適度につきましても569位から173位と非常に大きくなっております。ここでは指標で何かというのは、ちょっと私も非常に興味がありました。その中で見ていきますと、1人当たりの財政規模、これが非常に大きい。昨年は、特に合併以来、307億という非常に大きな予算だということもありますので、やっぱり1人当たりの財政支出額が大きいというところが原因かなというふうに思います。富裕度は、さほど変わらないんですが、468位から362位、持ち家比率が高いというところでランクが上がってるのかなと。そんな要素を分析しているところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今の分析のとおりかというふうにも思っておるわけですが、もう少しバランスがとれれば、申し分ないなというふうな気がいたしました。それと、特に住んでる住民、市民にとりましては、やはり今度は、富裕度を高めないとということで、これは満足度をこれからは高めるということになると、富裕度というのはかなり影響しますので、ここに力を入れていただきたい、そういうふう考えてるんですが、この辺はいかがですか。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

確かに市民の皆さんの実感というのは、ランクがこうだから実感としてどうだということがあるのかなと思うんですけど、やっぱり富裕度というのが、豊かさというのは誰でもやっぱり共通してくるところだと思うんですね。やっぱりここが上がってくると、やっぱり豊かな町だというふうに思いますので、財政力指数、税収を上げていくとか、そういったところが重要になってくると思いますし、事業所、経済的なところの売上げですとか、住宅の地価ですとか、そういったところの指標が上がっていくと、やはり豊かさというのは感じられるのかなと思いますので、今、人口減少社会になってきて、地域経済のほう厳しい局面になってくるかと思うんですけども、少しでもやっぱり市民の皆さんが豊かだなど、こう思えるようなところを取り組んでいかないと、上がっていかないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この調査のほかに、私は地域ブランド総合研究所の地域ブランド調査というのを、時々取り寄せて見ているんです。こういう冊子化もされておるんですけども、こちらの調査のランクにつきましても、少し紹介して、お伺いしてみたいと思うんですが、先ほど申し上げました東洋経済のランキングと、このブランド総合研究所のランキングの違いですけども、東洋経済は各種のデータを数値化して総合評価の偏差値を出しているわけですけども、この総合研究所は全国1,047市区町村の住民のアンケート調査によるものなんですね。有効回収数が、3万1,369人ということであります。

この総合研究所の糸魚川市のランキングなんですけども、まず認知度は全国で285位、魅力度は331位、情報接触度は274位、観光意欲度が232位、住居意欲度が304位となっております。繰り返しますと、まず認知度が全国で285位、魅力度は331位、情報接触度は274位、観光意欲度が232位、住居意欲度が304位となっておりますね。こちらのランキングに関しては、どのように感じますか、今言ってしまうのはちょっと無理もあるかもしれませんが、お願いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

地域ブランド調査につきましては、今、議員からいろいろお聞かせいただきまして、大変ありがたいというふうに思っております。その中でも指標が、先ほどの住みよさランキング812なんです、今度は1,000ですね。プラス都道府県が47なので、実質市でいきますと今度は町、村も入れて1,000になってもうちょっとワイドになったと。その中でやっぱりなかなか5つの指標の中で200番台、それから300番台というところですので、1,000でいえば、なかなかいい線で推移しているんじゃないかなというふうな感想であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今おっしゃるとおり評価を上・中・下の3ランクで考えてみますと、新潟県ではやっぱり上位ですね。全国では上の下というところかなというふうに思うんですが、東洋経済の総合評価はともかくとして、このブランド総合研究所の外から見た評価の場合、各項目ともブランド力がかなり評価に影響してるなというふうに感じているところです。

最近、当市におきましても、シティプロモーションとかブランド力強化に力を入れてるわけですが、この辺を含めて手応えというのは、どういうふうに感じているか、お伺いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

この調査、ブランド総合研究所の調査の中で、一番私の個人的な意見になってしまうかもしれませんが、認知度とやっぱり魅力度というところの視点だと思うんですね。認知度はやっぱりいかに知られているか、それと魅力というのは、よくいろいろ魅力、糸魚川の魅力って何だと、こう聞かれると思うんですけど、魅力って非常に難しい、言葉で言うのは簡単なんですけども、その人それぞれによってやっぱり価値観が違おうと思うんですね。この魅力度というのが高いというのは、それだけやっぱりいろんなここへ、糸魚川の地へ運んで体験ができる、いい価値観があるというふうにちょっと捉えていきますと、県内でいきますとやっぱりいずれにしても10位以内という位置に入ってますので、やっぱり観光的な面でのポテンシャルというのは、まだあるのかなというふうに感じております。このブランドに合わせて、シティプロモーションでもこういったブランド力の調査というのをやっておりまして、昨年、石のまちプロジェクトということで、立ち上げておるんですが、こういった情報の発信の成果、特にフォッサマグナミュージアムを使った石の鑑定ですとか、あと、民間の市民の団体の皆さんからもこうやって石のまちを使った広がりも出てきておりますので、やっぱり1つの切り口として、魅力を高めていくという効果はあるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先日、雪国観光圏の事務局で、上越沿線の観光戦略等を聞いてまいりました。この観光圏では、ブランディング力を強化する。これに的を絞って活動してるわけなんですけども、10年ぐらいたつんですが、かなり実績を上げてるといふうなことです。極端なことを言いますと、この観光圏では、イベントを一切やらないといふうなことも伺いました。そのかわり、毎月の戦略会議、それから7つのワーキンググループの活動、これ非常に多彩な活動を展開しておられました。大嶋商工観光課長も同席されましたので、どのように感じられたか、少しお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雪国観光圏につきましては、民間主導型の組織でありまして、雪国文化という共通するブランドコンセプトを基にしまして、3県7市町村で広域観光連携を行っておられました。それで、今言われたようにブランド力、ブランドをわかりやすく見せておりまして、例えばサクラクオリティ制度でありますとか、雪国A級グルメなどの認証制度などを使いまして、官民それぞれの役割で事業を推進する体制が整っているといふうに感じたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

どちらかといいますと、どこでもそうなんですけど、行政、観光協会、商工会議所、商工会、これはイベント重視にどうしてもなりがちなんです。それも大事なんですけども、その効果のほどは、どれぐらいかというようなことで、集客というのはよく見えるんですけども、そのほかの分析というのが弱いといふか、どうなってるかといふのは、曖昧にどうしてもなりがちになる。大事なのは、各組織が目的どおり動いてるのか。雪国観光圏の例を申し上げれば、各種会議が結構頻繁に開かれてるんですけども、出席したかどうかという固有名を内容と同時に公表してるんですけども、そういう非常に本気度が感じられた一面も見受けてきましたんですけども、大嶋課長、この辺どう感じましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今言われましたように、そこに参画されておる民間事業者の方も片手間で参加するのではなくて、本当にやる気を持って参加されてるといふうに思っておりますし、前段言われましたイベントのためのイベントになってはならないといふことで、それが個店の売上げにどう結びつけていくかということを大事にされているとか、あと、あえて宣伝をせずに口コミによる集客を図って、またリピーターの獲得につなげていくという言葉が印象的でした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

毎年様々な機関から発表されるランキングなんですけども、糸魚川市の位置とといいますか、確認するには非常に参考になりますし、何よりも全国に公開されておるわけです。いろんな意味で発信され、非常にわかりやすい数値にもなってるわけですので、市としましては、さらにランキングとランキングをつなぎ合わせて今後の政策に生かしてほしいと思いますが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々もやはりいろんな手を打ってまいってきております。それがどのような効果につながっているかというのは、やっぱり一番心配する点でもあり、気にしておる部分がございます。そのようなことが、そういった数値を見ることによって、またどのように進めていけばいいのかというところにつなげていかなくはないといけないだろうと思っております。そういった評価の内容について、しっかり分析しながら取り組んでいきたいと思っております。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。50分まで暫時休憩いたします。

〈午後1時41分 休憩〉

〈午後1時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。それでは、ランキングの関係につきまして、年間のランキングということでは、このほかに新潟県の100の指標、これも毎年発表されとるわけなんですけども、この100の指標に関して昨年のデータ、全体とといいますか、ご覧になって、特別感想をお持ちでしたら伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

新潟県の100の指標でありますけども、大きく分けて8つの項目だと思っております。いろんな自然、人口規模ですとか、あと経済や労働、それから農林水産業、それから生活環境、防災安全、福祉・医療、教育、文化、財政と、全般にわたって指標であるというふうに思っております。それで県内ですので、これは20市だけではなくて、市町村を入れた30市町村の状況を全体的に見るという指標なのかなというふうに思っております。これを見ていきますと糸魚川市は、これは100の項目がありますけども、ちょっと順位を全ての項目でランキングしてみますと、大体30の市町村の中でも大体真ん中辺に今は位置しているのかなというところが見えてくると思います。

ただ、ここからは逆説な言い方になってしまいますが、今後は、今は真ん中なんですけど、これから人口減少が進んでまいります。当然、財源の確保、今度は職員、人材の確保、そういった課題もある中で、今の行政の仕組み、実際の事業、これをいかに業務改善を含めて、いかに効率的に進めながら今の現状をどうやって維持していかなければいけないのかなというふうに、逆に改めて中央にだけに、今の水準をどうやって業務改善を図りながら、効率的に進んでいけるのかなというのが、私が見た感想であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるように、この100の指標は、さらに身近なもののランキングを示しておるわけでございますので、おっしゃるとおりかなというふうに思っております。

それでは、2番目の行政の仕組みと仕事の在り方についてでありますけども、合併から15年ですけども、合併後の職員の推移、概算で教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

合併時の職員数は、684名でした。15年後、来年度、今度の4月1日になりますけども、今現在508人を予定しておりますので176人の減、率にしまして25.7%減少ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現在の職員数なんですけども、この定員適正化計画に照らしたときに、この辺、適正に推移してきたというふうに考えてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、508人というのは、定員適正化計画より少ない数字ということで、基本的には適正化計画の範囲の中で職員の数を確保しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私もこの計画の、平成28年から令和2年度までの5カ年を見ると、計画の最終の、今から1年後の令和3年4月1日の目標値が、正職員510人というふうに書いてあるんで、今おっしゃるように508というふうなことからすると非常に目標値がきちっとクリアされてるかなというふうに思うんですが、それと同時に、この中で5年間の人件費の総削減目標値が、10億円というふうに記されておるんですけども、この辺の達成というのは、大丈夫なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

適正化計画の中でも金額等を出しているわけですけども、おおむねこの範囲、ただ人事院勧告等ありますので、若干ぶれはありますけども、おおむねということであれば、その範囲の中で推移しているというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

そもそもこの定員の目標値の決め方なんですけども、これ見るとなかなか難しい決め方になってるようなんですけど、これ方式というのはいろいろあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

定員適正化計画の中にも幾つか算出する根拠があるという中で、総務省が示している指標を使って、今回のはつくらせていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私、これの計算式を見てみとるんですが、一番我々が分かりやすいというのは、本来は事務量の算定方式と申しますか、実際の事務量がどれぐらいあるかというのが算定できれば一番分かりやすいんですけども、ほかの類似団体の例を見たりしたのを加味して、数値を設定するというようなところもあるみたいですし、その辺はともかくとして、なかなか難しいなというふうに感ずるわけです。

それからもう一つ、正職員の数はきちっと予定どおりに動いてるかと思うんですけども、ある一面では、この減ったほうを再任用職員であったりとか、あるいは臨時職員、どちらかというところカバーしてんじゃないかと思われるようなところも、実はあるわけなんですけど、来年度からまた会計年度任用職員という名称の形にもなるかと思うんですけど、こういう体質というのは当面続くというふうなことで考えてよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

臨時職員といった形は、合併後増えております。この増えた理由は、一般的な事務の補助という方はほとんど変わらないんですが、教育補助員であったり、保育士であったり、いわゆる行政サービスに直結する方の雇用を増やしているということでもあります。いずれにしましても行政課題に応じた職員の対応といったものを今後も進めてまいりたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほどもちょっと説明はありましたけども、問題は、合併から今まで、この間、人口が15年間で約8,000人減少してると。この人口減というのは、仕事量にどのような実際、影響があるのかどうかというふうなことなんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

この間、人口が8,000人ほど減っているわけですけども、業務量はどうかということでもありますけども、この15年間で見ますと新しい行政課題というものが生まれて、介護であるとか高齢者への対応とか、あるいは児童福祉への対応といったことで、新たなサービス需要が増えております。また、新潟県からの権限移譲というのも進んでおりますので、事務量としては減ってるというよりも、増えてるというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるとおりだと思うんですね。国は、むしろ人口が減っても事務量が増えているという認識ですよ。極端なことをいうと倍くらい、いわゆる事務量は増えていくんじゃないかという懸念をいたしておるわけですが、そこで、このSociety 5.0社会のスマート自治体というところで、今、仕事の仕方を抜本的に見直す必要があるというふうには国は言ってるんですけども、この辺の指摘に関しましては、どのように受けとめていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

総務省が2018年に自治体戦略2040構想研究会の報告というものをまとめております。その中で半分の職員数でも担うべき機能が発揮される自治体を目指すべきだといったことを言っております。そのためには何をしていけばいいかという指針を出しておりますが、そういったものを参考にしながら、半数というのが実現可能かどうかわかりませんが、そういった方向の中で進めていかなければならないというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおりスマート自治体の体制、一言でいうと人口が減少しても自治体が持続可能な行政サービスの提供をというふうなことで、特に住民福祉の水準を維持してもらわなきゃならんというふうなことなんです、そのためのスマート自治体の目指すべき姿、これで職員は職員でなければできない、より価値のある業務に力を注ぐべきだというようなことから、AIとかIoTとかRPAなどを使った行政が必要になるというふうには言ってるんですけども、そのための体制への転換を求めているんですけども、じゃあ具体的にどうこれから考えればいいのかということなんです、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

具体的にということですが、RPAでいいますと、現在RPAの取組を実際進めております。一昨年度から庁内で勉強会を開いたり、職員が先進地事例を視察したりしております。

昨年の暮れなんですけども、じゃあ実証実験をしてみようということで、1つの業務についてRPAを使った業務を実験的に行いました。導入前、90時間かかっていた仕事が、導入後4時間と

ということで、86時間減少しました。費用につきましても基本的には半分ぐらいで済んだということであります。これを踏まえまして、庁内で再度勉強会を開いて、各課でどんなことができるんだということで、業務の洗い出しを行いまして、50業務が出ております。この50業務につきまして、今後、具体的にやれるもの、やらないもの、やれるものといったような形で、取捨選択する中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

既に効果が現れているというふうなことで、非常にいい感じかなと思うんですが、特に心配なのが、この行政というのは平均3年ぐらいで異動されるというふうなことで、そのためにも、かなり浸透するまでは、専門部署とか全課横断的なRPAのプロジェクトチームをつくるとか、もう少し工夫が必要ではないかなという気もするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、私ども上越市、妙高市、糸魚川市と3市でこの取組について勉強会を開いております。そうした情報交換の中で妙高市では、スマートシティ推進プロジェクトチームをつくったり、あるいは上越市では、これまで総務課であったものをほかの課に動かすといったような取組を進めておりますが、糸魚川市としては、現段階では今の体制の中、今、庁内勉強会とか庁内の検討会とか、いろんなものをつくる中で情報の共有が図られております。ということで、ここで進めてまいりたいと思いますが、議員ご指摘のように状況を見ながら新たな組織が必要だということになれば、そういったものをつくる中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

国は、スマート自治体を実現するための方策として、先ほどから言ってるAI、IoT、RPA等のICTの活用を言ってるわけですが、国からは具体的にどのような方策といいますか情報がもたらされてるのかどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

国からは具体的には、デジタルガバメント実行計画、あるいはスマート自治体研究会報告書、先

ほどもご説明いたしました、これによってICT導入による業務効率化の推進が示されておりまして、国による説明会や新潟県を通じてメールでの情報提供を受けているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

特に今後のRPA導入の手順といいますか、少し整理した考え、先ほども述べられてはあったんですが、少し整理した考えというのをお聞きしたいと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、国の考えの中で市としてどうやって進めていくかを整理して考えていかなければならないと思いますが、RPAにしてもAIにしても具体的な道筋と申しますか、具体的にどう取り組むかということにつきまして、徐々にですが形が見えてまいりましたので、それを具体的に落とし込みながら進めていくといった形の中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今まで経験したことのない課題や取組はあると思うんですけど、その点、課題はいろいろあると思いますが、多くの自治体では、自治体の現場でICTを活用するための必要な人材が不足していると。簡単に言えば何から取り組めばいいのか、それすらもちょっと入り口の段階でよくわからなくてストップしてるケースが多いというふうなことを総務省、こないだ少し研修させていただいたときにそういうお話がありました。この人材といった点では、糸魚川市はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議会の中でも外部人材の登用といった話を、ご意見を頂戴してるとこなんですけども、私どものこの取組の中では、総務省の地域情報化アドバイザー制度を使いまして、外からアドバイスをいただいております。具体的には、平成26年度から毎年アドバイザーに来ていただきまして、電算システムの最適化とか、システムの更新事業であったり、情報セキュリティーをどうやってやればいいのかといったアドバイスいただいております。

先ほどのRPA、AIにしても、ほかの先進事例もお聞きしております。課題もお聞きしております。それから、自治体の規模によって取り組めるものと取り組めないものといったものもありま

すので、そのあたりをお聞きする中で今進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このRPAに関して言えば、総務省は地域アドバイザー派遣制度というのを設けていて、いわゆる年3回まで総務省で対応できるというふうな話もお聞きしてきたんですが、この平成2年度に向けて、こういう制度を活用していくという考え方は持っていらっしゃるわけですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

平成26年度からこの制度を使わせていただいておりますが、非常に効果があるし、ほかの事例を具体的にお聞きすることができるし、さらに具体的な取組へつながるといふことを感じておりますので、来年度も引き続き、この制度を活用しながらICTに向けた取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、RPA導入に関してですけれども、ポイントは事前の業務分析を行って、自動化に適した業務を選択できる、選択することが必要だというふうな話もお聞きしたんですが、この辺のところはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

やはり人口規模、自治体の規模によって取り組んで費用対効果のあるものと、ないものというのがあると思います。よく保育所の入所を自動的にやるというようなシステムもありますけれども、糸魚川市では、その導入のコストを考えますと、現状のままのほうがいいといった業務がありますし、大量に処理をするもの、先ほど90時間が4時間になったといったお話もさせていただきましたけれども、そういった業務もありますので、取捨選択する中で、費用対効果を考えながら取り組んでまいりたいというように思います。

訂正をお願いいたします。

先ほど上越市も担当部署が変わると申し上げましたけれども、その後の検討の中で担当部署は変わらないということですので、訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほど事前の業務分析が必要だというふうなことでお話しさせてもらったんですが、現在、職員の皆さん、デスクには1人1台ですか、パソコンが置かれてると思うんですが、実際にこのパソコンの処理の実態といいますか、各人のアクセス履歴などをとって、どんな仕事にどんな利用頻度で使われてるか、この辺もできればきちとした基本的な調査も必要になってくるんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、情報資産管理システムというものを導入しております、庁内の全パソコンの動きを把握しております。具体的には、どのパソコンが、いつ誰によって何の操作を行ったかを24時間365日監視・記録して、必要に応じてそのデータの活用について検討してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように前準備として作業の標準化等も必要になってくるんですが、現時点でかなり全国の自治体でのRPA導入の状況というのかなり見えてきたんじゃないかなというふうに思うんですが。当市として容易に導入できそうな業務の処理、先ほど課長の話ですと全庁調査して、取り組めるものは見えてきているというふうなお話でしたんですが、その辺具体的にどんなものに取り組みたいか、1、2ちょっと紹介していただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

来年度3業務ぐらいやっていきたいと思っておりますが、1つは臨時職員の賃金の処理、もう1つ、入札参加資格登録入力といったものを今現在、想定しております。臨時職員の処理の関係でいきますと、今、年間処理時間が350時間、それから入札の関係は251時間といった処理時間を把握しておりますので、これがどう変わっていくかということをやりながら、取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

RPAの場合は、ソフトとソフトの間のデータ処理が容易に行える仕組みというふうにも言えるんですけども、非常に効果が期待できるわけですが、私ら議員側からの立場で見ると、手間が省けるということと同時に、各種のデータの組み合わせによりまして、政策に生かせる分析ができると。市長サイドで考えれば、各業務の実態がすぐに見えるというふうなことで、非常に政策が打ちやすくなるんじゃないかなということに期待してるんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

その辺りがまさにSociety 5.0だというように思っております。いかにそういったデータを組み合わせながら、人間が今まで考えたもの、情報処理をするものを機械に置き換えて、人間は本来やるべきもっと高度な企画力といったものに、政策・立案といったとこに進めていかなければならないと思っておりますので、そういった方向の中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

AIに関してですけども、導入されている実態なんかをちょっと見てみますと、機能別で考えると、主なもので音声認識システム、これは一部当市でも活用されてるというお話でございますし、それからもう一つ、チャットボットという応答システム、これは会話シミュレーションを行うプログラムというふうなことで、これもどちらかというところ糸魚川市でも非常に有効な活用方法があるんじゃないかなというふうな気がいたしておるんですけども、ぜひ検討していただきたいというふうに思っております。

次に移りたいと思います。

市民憲章についてであります。制定したときはどのような形の普及を考えていたのかどうかというふうなことで、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

制定時におきましては、児童生徒をはじめ、多くの市民の皆さんに当市の自然資源、あるいは地域固有の伝統文化を認識してもらいながら、市町合併後の一体感の醸成を図ることを目的に、心のよりどころとなる市民憲章、さらには市の木、市の花、市の鳥、市の石を選定したところであります。

その取組の一環としまして、公共施設への看板やパネルの設置のほか、中学校1年生へオリジナルクリアファイルの配付を毎年、今、行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

広報紙等でも時折見るんですけども、今までどんなスタイルで、どれくらい掲載されているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

制定当時には、広報いといがわで、当然のことながら掲載させていただいたほか、毎年、今、秋にですが、市内の協力団体により実施していますササユリの植えつけの様子や案内等を掲載させていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、年間計画的な推進といいますか、普及の在り方を整備する必要もあるのではないかと思うんですが、その辺はもう整備されているということよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今年度から来年度にかけて、新しい施設ができます。新しい施設には、看板やパネルの設置を行いたいと思っておりますし、先ほど申しました中学校1年生に対するクリアファイル配付といったものを引き続き、やっております。

また、昨年度ですが、市の木の普及促進を図ろうと市民憲章のパネルの下のところに市の木、市の花、市の鳥、市の石のカラーの写真を付け加えまして、より身近に感じていただくような取組をしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

実際に市内で市民憲章を定期的に唱和したり、また、内容を広げて、各種活動に活用しているとい

う機関とか団体、ございましたら、情報つかんでましたらお聞かせいただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、行政内部ということでありまして、今年から市長の指示によりまして、部・課長会議が終わると、今の市民憲章の唱和をしているところであります。このほか各課等でも朝礼のときに市民憲章の唱和をしております。

また、教育委員会の仕事始めの式等によって、定期的に唱和を行っているところですが、民間の団体等につきましては、まだまだといったところでありますので、今どうやってやればいいのかということで、課内でもアイデア出しをしておりますし、今後、庁内全職員に声をかける中で、どうやってやればいいのかといったことを募ってまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今お聞きしまして、市の幹部の皆さんだけかと思ったら、各課にもおろして、活動に生かしてるというふうなことであれば非常に心強いといえますか、意義があるなというふうに思っております。

この市民憲章は、「何々しましょう」という呼びかけ型でなくて、「します」と言い切ってるわけですから、これはやっぱり市民主体の憲章だというふうなことになるならば、市民主体の憲章として機能させるということが大事になるんですが、その辺の仕掛けというところまでは行ってないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

来年度以降の取組ということになりますけれども、市民の皆さんへの文書とか、あるいは封筒、今も1種類だけ窓あき封筒に書かせていただいているんですけども、そういったところの掲載をより広くしていきたいと考えておりますし、幼稚園児、保育園児、小学校低学年についても、例えば塗り絵といったような手段を使う中でやっていきたいということを考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

かなりの部分で考えもお聞きしましたし、ぜひそのように進めていただきたいということと、ほとんどのところ、推進協議会みたいなのをつくられてるんです。専用の広報紙を発行したり、また、

優良実践者にも表彰したり、作文とか絵のコンクールを実施したり、非常に楽しんで活用してるといいですか、それから、何よりも市民が暗唱していると、すらすら唱和できるというようなことで、推進協議会の設置というのは非常に有効かなというような気がするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご提言の推進協議会というのも1つの方法だと思いますが、一方で、例えばチーム糸魚川とか各種会議があります。こうした中で、どうやってこれをやっていけばいいかということもありますんで、ご意見も踏まえながら、より一体感の醸成は、まさにお話にありましたワンチームになるような取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この推進協議会をつくることができれば、行政がそんなに手をかけなくても自主活動、元来この自主活動をしていただくタイプのものだというふうにも思います。市長が、市の幹部に声をかけて、職員の唱和等にまで結びついてるというふうなことなんですが、市長いかがですか、市民に推進協議会なりを通じて、その実践活動を呼びかけていただくということについては。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

推進活動については、やはりどこかで力を入れていかなくはいけないんだろうと思うわけでございますので、その辺を勘案しながら、組織をつくれればいいのか、また、いろいろ会議の中に冒頭、皆さんにお願いして、自主的に広まっていけばいいのか、その辺もまた協議しながら取り組んでいきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、今年度の市の予算を見ますと、市民憲章等推進事業の予算が33万6,000円、この予算でどんな推進を描いて、実践しているのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今年度につきましては、新中学校1年生の配付用のクリアファイルの製作とササユリの球根の購入費が、主なものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市民憲章、総合計画のトップページにも位置づけしてるわけですね。この理念が各事業に関係してるというふうにも考えてもいいわけですが、そういった面からすると、やっぱりそのままでも何ら差し支えないということになるかもしれませんが、やっぱり大事にしたいなというふうに思うんですが、繰り返しになりますが、ぜひその辺考えいただきたい、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

熱い激励を頂戴いたしました。ぜひまさに意識の根幹だということで、さらなる事業の拡大、取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

2番目の各種宣言や活動についてであります。まず、この各種宣言の宣言に至った背景、お伺いしたいと思います。はつらつ健康都市宣言、生き生きスポーツ都市宣言、糸魚川市平和都市宣言、糸魚川地酒で乾杯宣言ありますけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

宣言につきましては、市民の幸せは、一人一人の市民が心身ともに健康であることから始まり、健康であってこそ活力や生きがい生まれるという考えのもと、合併前の旧糸魚川市で行っております。合併後におきましても、その理念、精神を引き継いで、改めて新市として、はつらつ健康都市宣言を行ったものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

生き生きスポーツ都市宣言につきましては、市民一人一人が生涯にわたって、いつでもどこでもスポーツに関心を持ち、生涯を生き生きと過ごすことの上で、極めて大きな意義を持つことから、市民スポーツの振興をさらに推進するために宣言を行ったものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

平和都市宣言につきましては、平成19年の6月に宣言、制定したものであります。この前の頃、この時代の頃でありますけれども、北朝鮮の核問題、あるいは国民保護計画が策定中だといった中で、非核平和に対する意識の高まりの中で、いろいろな議会等のご意見を踏まえる中で、制定したというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川地酒で乾杯宣言でございますが、北陸新幹線開業の1年前に、地酒の魅力発信と交流人口の拡大を目指して、当時の実行委員会と市と観光協会の連名により行ったものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。このはつらつ都市宣言ですか、健康都市宣言、宣言文にあるこの4項目に関してでありますけれども、具体的に取り組むための戦略というようなものは、立てられてるのかどうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市民の健康づくりの推進につきましては、健康いといがわ21に基づき、取組を進めております。計画におきましては、栄養、食生活、運動、生活習慣など6つの分野で目標を掲げ、それに向けた施策事業を位置づけて取り組んでおるものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

わかりやすいところで、この内容的にはどの辺の指標を持ってはつらつ度を判断してるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

第2次健康いといがわ21におきましては、健康寿命の延伸というのを大きな目標として取り組んでおります。はつらつとした生活については、健康であるということが大前提でありますので、健康寿命というのは、はつらつを示す指標になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ちょっとスタイルが違いますが、地酒で乾杯宣言、糸魚川市へおいでいただいた方、あるいは市内での集会の際に地酒をお使いくださいというふうなことは、理解しとるわけですが、実際に効果はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

懇親会のときに地酒にかかっている紙の蓋でございますけども、平成26年から令和元年までで、計で10万2,000枚を作成しているというふうにお聞きしております。全体的に見ますと酒蔵がある糸魚川地域では、かなり浸透してきておりますが、能生地域、青海地域では、まだまだ力を入れていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

そうすると、こちらの活動というのは、どこが主体になって続けておられるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この乾杯宣言をしたときにつきましては、先ほど申しました糸魚川地酒の魅力発信実行委員会がございまして、ここと市と観光協会が連名で乾杯宣言を行ったわけですが、この実行委員会が発展的解消をいたしまして、現在は糸魚川五醸の会が引き継いで活動に取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このほかに、おみちようプロジェクトをはじめ、プロジェクトという名のものや、いろんな市民と一体になってする取組なんかもあるんですけども、一部の取組に、若干言い方悪いんですが、尻すぼみになってるんじゃないかなというような、忘れかけてるようなものもあるかもしれません。いいものはやっぱり残していただきたいですし、また改善していただきたいと思うんで、生きた取組にぜひしていただきたいというふうをお願いしたいと思いますが、もし何か、おみちようプロジェクト等について、ご感想があればお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

おみちようプロジェクトに関しましては、新幹線開業を機に、糸魚川市に来ていただけるお客様におもてなしの気持ちを込めて接することで、また糸魚川市をどんどんまた何回も訪れていただけるようにという思いで立ち上げたプロジェクトでございます。おみちようランチですとか、その後、少しは展開したんですが、今確かにご指摘のように若干ちょっと忘れかけられとるような一面もございますことから、また、観光部局のほうでも、まだまだこれから新幹線の2段ロケット式にまた盛り上げていく必要もございますので、その辺を今思い出させていただいたと思っておりますので、大変ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このおみちようプロジェクトに関しましては、糸魚川信用組合さんの窓口で時々、声かけをされておりますし、感じるどころがございます。よろしくお伺いしたいと思います。

それから3番目の市歌、市の歌でございますけども、制作と制定について。

先ほどのご答弁もございましたけども、実際、ウィキペディアによりますと、新潟県内20市のうち11市で市歌が制定されてる。されていない市でも、市を代表するようなご当地ソングがあるというふうなことですね。ちなみに今、上越市、妙高市は、合併後に新たに設定されていると。改めていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

妙高市、上越市にそれぞれお話を聞く機会を得ました。上越市につきましては、庁舎の始業時に市民の歌を流してるそうです。それ以外にホームページの掲載ということで、それ以外はやってい

ないというお話を聞いております。妙高市につきましては、防災無線のチャイム、電話の保留音で流す。また、市のイベント時のバックミュージックで流しているほか、ホームページの掲載をしていると。作成時には学校にもCD等を配付していたが、現在ちょっと活動が停滞しているかなといった話であります。

当市におきましても、防災無線におきまして夕方5時に相馬御風を親しんでいただこうと季節ごとに春よ来い、あるいはカチューシャの唄等を流しておりますけども、今後も当地域にゆかりのある名曲の普及促進に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

非常に残念です。上越市、それから妙高市の市歌を聞いてみたんですが、非常にすてきな曲なんですね。ですから、もっとやっぱり活用すればいいと思うんですけども。

先ほどおまんた祭り、おまんたばやしの話も出ましたけども、このおまんたばやしというのは、どんな経緯で作成されたのか、参考までにお聞きしたいですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

おまんたばやし、おまんた祭りにつきましては、市史の昭和編にも出ておりますが、その中で文書でいきますと、糸魚川青年会議所が、旧糸魚川町内の4つの神社の祭りを一本化できないかということに端を発しまして、市民総参加の祭りを誕生させようと市民に訴え、賛同の輪を広げていったということでありまして、4万人が集まって、おまんた市を開いたり、今も続いておりますけども、おまんた祭りをやっていくといった中で進めているところであります。

いずれにしても基本的な考え方は、地域住民の全市的な連帯感であったり、郷土に対する愛着心、糸魚川を遠く離れた人たちのふるさとへの郷愁といったものを促そうという中で、おまんたばやしが出てきたというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現在、愛唱されております郷土民謡といいますか糸魚川の郷土の愛唱歌、先ほどからもいろいろ挙げられてるんですが、どれぐらいあって、どんなときに愛唱されてるかというのを整理はされておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほど市長の答弁の中にも親知らず子知らずとか、大糸線といったようなものがあります。親知らず子知らずにつきましては、かつて中学校、青海地域の中学校の合唱曲として歌われてたということで、うちの職員に聞きますと、30以上の職員はみんな歌えるといった状況であります。

一方、大糸線になりますと、これは演歌でございますので、カラオケボックスの中で歌っているといたことが多いかと思いますが、全体でどれだけあってというのは、現在全てを把握してはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市歌というのは、糸魚川市の一体感の醸成、それから市民のふるさと意識の高揚とか、糸魚川市のイメージアップを図るという点で、非常にわかりやすく、しかもいつでも気軽に個人で親しめるという効果が期待できるんで、市長いかがですか、これやっぱり15年、市歌をつくりましょう、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に私も一体感をつくるには、この市の歌というのは、効果があると思っております。

しかし、本当に旧1市2町のやはり町の中には、しっかりとふるさとの歌が残っておるものですから、みんながやっぱりイメージは歌のところに行ってしまうのかなと思っております。本当に旧青海の歌も、非常に市民の中に浸透いたしておりますし、また、能生の皆様におかれましても、弁天岩を中心とする歌が結構あって、歌っておられる。糸魚川には糸魚川に大いにまた、おまんたばやしがあったり、また、相馬御風の歌も結構歌われて、どれもみんな大事ではあるし、またその中でもう一つということになってくると、果たして市民の皆さん、わかったと言ってくれるのかなというような、ちょっと不安な部分があります。みんなまとめて1つの歌にしたいなぐらいに考えるものでありまして、一番やはり市民憲章や市の歌というものも本当に大事だなと思っております。みんなに若い人から年配の方まで、みんなが愛着を持って市の歌として受け入れてくれるというのは、本当にいいのはわかるとるんですが、どうやって進めるかなというと、ちょっとやっぱりじくじたるものがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

市長の欲しいという意識は、伝わりました。

最後になりますけども、市民憲章も各種宣言に関しましても、もっとやっぱり市民に活用していただいて、市民のものにしていただくためにも、現在スマホ社会といいますか、動画社会にもなっておりますので、額に入れて公共の場所に掲げるだけではなくて、市民の手元に身近にあるというようなことも考えてほしいというふうに思いますが、その辺最後ですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、看板なりポスターという形でやらせていただいておりますが、今、スマホといったご提案もありますので、それも含めながら、時代の変化に合った取組を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。この分野においても、Society 5.0 社会に対応した在り方でお願いしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をいたします。

1、働き方改革について。

(1) 会計年度任用職員について。

- ① 会計年度任用職員については、現職の臨時職員からの任用と公募も行っているようですが、どのような状況か伺います。
- ② 任用に当たって初任給の格付、昇給について伺います。
- ③ 再度の任用については、どうなっているか伺います。
- ④ 総務省マニュアルには「公務の運営においては、任期の定めのない常勤職員を中心とするという原則を前提とすべき」、こう書かれております。会計年度任用職員制度の施行に当たって、このことが検討されたか伺います。
- ⑤ 平成30年度の12月定例会において、市長は、会計年度任用職員への移行時に、「臨時職員の給与を下げて諸手当で調整するようなことは考えていない」こう答弁しております。

したが、そのことがどこに活かされているか伺います。

- ⑥ 臨時職員の多くを女性が担っております。SDGsの17の目標の中の5番目に「ジェンダー平等を実現しよう」とこう書かれております。日本はジェンダー平等に関して、149か国中110位と後進国であります。これは2018年世界フォーラムの発表であります。糸魚川市では、会計年度任用職員制度移行を機会に臨時職員の待遇改善を行って、女性の暮らしやすさをアピールしたらどうかと思いますがいかがですか。
- ⑦ 昨年12月18日の高市総務大臣予算折衝・地方財政対策関係記者会見によると、大臣は会計年度任用職員制度の施行に伴い、地方団体に対して期末手当等の所要額の調査を行った結果、1,700億円程度の一般財源を確保したという話であります。このことについてどう考えるか伺います。

(2) 民間の非正規・臨時労働について。

市立保育園等については、フルタイムで働く臨時の保育士や幼稚園教諭と保育園調理員が、フルタイムの会計年度任用職員へ移行するようであります。今後の待遇改善を期待するところであります。

ところで、民営保育園の方からは、保育士の確保とその待遇改善に大変な苦勞をしている、こういう声があります。この対策について伺います。

2、持続可能な糸魚川市について。

SDGsは「持続可能な開発目標」と訳されているようですが、私としては、「持続可能な発展目標」と理解しておるところであります。17の目標は全面的に賛成できます。

日本全国でも糸魚川市でも、持続に関して、一番問題となっているのは、人口減少問題、すなわち人間の再生産の行き詰まりだと思いますが、以下伺います。

- (1) 老年人口指数について、日本は農村部では46.34%で、2位のポルトガルに5%以上の大差をつけて世界第1位です。都市部につきましても35.12%でありまして、2位のイタリアに4%以上の大差で世界第1位であります。これは、また世界ランキングなんですけども国際統計格付センターの世界ランキングです。糸魚川市では、この老年人口指数はどのような状態か伺います。
- (2) 男性の年収と既婚率には明らかに関連があることが知られております。低年収が家庭を持ってない原因の1つと思いますが、いかがですか。
- (3) 2000年以降、韓国やイギリスは賃金が上昇しております。日本においては、賃金の上昇は全く見られず、大企業の内部留保が増えるばかりでありました。この20年が、国民・市民の、人間の再生産の行き詰まりを決定的にしたと思えるのですが、いかがですか。
- (4) 十数年前に、学力世界一として有名になったフィンランドでは、国を挙げて子育てに力を入れ、ネウボラという仕組みをつくり、成果を上げてきました。糸魚川市は、こども支援室を設置しましたが、その取組状況について伺います。

以上、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、現在働いている皆様に意向調査を行っており、公募と合わせて準備を進めております。

2つ目につきましては、職務の内容に応じて設定いたしており、昇給につきましては、現在、検討いたしております。

3つ目につきましては、毎年、人事評価を行いながら判断することといたしております。

4つ目につきましては、基本は常勤職員の補助的業務を行う職員として、会計年度任用職員を任用してまいります。

5つ目につきましては、令和元年度の給与を下回ることはないように準備を進めております。

6つ目につきましては、引き続き、働きやすい環境づくりに努めてまいります。

7つ目につきましては、具体的な内容が示されていないことから、情報収集してまいります。

2点目につきましては、国において、技能・経験に応じた賃金アップ制度を創設するなどの処遇改善が図られており、市も連携・協働して保育士の確保に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、2015年国勢調査ベースで、71.28%となっております。

2点目につきましては、個人の価値観など様々な原因があると考えております。

3点目につきましては、市税概要では賃金は上昇しているものと考えております。

4点目につきましては、子育てに関するあらゆる相談の窓口として、関係者で情報共有を行い、支援を必要とする方へのきめ細かな対応を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

(1)の①ですけれども、会計年度任用職員、臨時職員からと公募からと言われましたが、現在のところ臨時職員から何名、公募で何名の予定でありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

臨時職員からは428人、公募につきましては、現在42人を募集しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

事務処理マニュアルによりますと、会計年度任用職員は、その給与は職務遂行上、必要となる知

識、技能及び職務経験等を考慮して定めるべきものと書かれております。再度の任用時に、同じ職種につき場合の昇給は、予定しているのかどうか、そこら辺を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

職務の内容に応じ、設定しております。昇給につきましては、現在検討してる段階でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

再度の任用についてですけれども、自治体によっては回数制限をしてるような自治体もあると聞いておりますが、糸魚川はどのような形をとる予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現時点では、回数の決まりはありませんが、毎年、人事評価を行いながら判断するということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

4月から施行されるわけですが、まだ決まってないところがあるようですので、これは早目に決めていただいて、会計年度任用職員の方々の将来計画もあるでしょうから、そこら辺もよろしくお願ひしたいと思ひます。

令和2年度当初予算参考資料によりますと、総職員数は1,055人であり、そのうち一般職530人、特別職3人、そのほかに会計年度職員が530人、その他14人となっております。会計年度任用職員とその他の職員の比率ですが、全総職員数に占める割合は51.6%となっております。平成30年には、非正規率が前年よりも3.1%増えて40.7%だったはずですが、2年間で50%を超えて、その増加率は毎年5%から6%にもなっております。この原因を伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、例えば今、正規職員が一般事務等やってる仕事を全て置き換えるというような形ではなくて、そういった一般事務につきましては、合併前、合併後、合併直後と現在というのは、ほとんど変わっておりません。そうした中で、新たな行政サービスが生まれていることなどから、例えば教育補助員とか、未満児保育が増えているということで、保育士の採用といったことを進めておりまして、基本的には行政サービスの向上に努める中で、職員を雇用させていただいているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私から見ますと、どうもこの増加の具合を見ますと、やっぱり正職員から臨時職員や会計年度任用職員への置き換えを行っているように見えてしょうがないんですが、そのところは間違いないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

予算参考資料の中にも具体的な会計年度任用職員の数字を出しております。令和元年度に比べて、令和2年度はどうかということでもありますけども、基本的には、先ほど申し上げました、例えば保育士とか教育補助員、そういったところが増えておりますし、また、制度の改革に伴いまして、例えば地域おこし協力隊といったものが、令和元年度はほかの職だったのが、会計年度任用職員になったということでありまして、基本的には行政サービスの向上に向け、行政課題に対応しながら雇用しているという状況では変わっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

平成30年のときにも、前年度よりも3.1%増えて40%に乗ったという話をしました。今回、さらにその時点から20%以上増えて、実は51.6%になっております。こういう形が続いていくと、今1年間に五、六%増えてますから、来年、再来年と60%、70%になるんじゃないかと、そういう心配がありますが、そこら辺は制限といいますか、そこら辺は考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの予算参考資料を見て、増えてるところを見ていくと、全てが今言う教育補助員だったり、

若者サポートセンター指導員といったような新たな業種もあります。ということで、結果的に言いますと、翌々年度がどうかというのは、現段階では何とも言えないということでありまして、いずれにしても行政課題、それから地域課題に対応しながら、職員の雇用を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

教育補助員等の一時的な仕事だということでもあります。特にパートタイム型会計年度職員が多くなっておりますが、これは一般事務職かと思いますが、住民サービスにこのままだと影響するようなことは考えられませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

パートタイム会計年度任用職員の基本的考え方は、常勤職員の補助的業務をやるということでありまして、前線に立っていくのは常勤職員でありますので、サービスの低下にはつながらないよう取組を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

それでは、平成30年度の12月議会、私は一般質問で臨時職員の給与を、毎月の給与を下げて、それを期末手当に回すような、そういうやり方をする可能性があるのか問いましたところ、市長は、そういう調整は考えてないとおっしゃいましたが、私もそのとき、市長はこの会計年度任用職員制度移行に合わせて、臨時職員の待遇改善もしようと思ってくれたんだなと思ってたんですが、市長、そこら辺はどういう考えだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、議員ご指摘の平成30年12月議会の市長答弁に沿って進めてまいっているところであります。考え方は、令和元年度の給与を下回ることなく、年収が増加するよう制度設計を図っているということでありまして。具体的にどこがどう生かされているかということになりますけども、現在お勤めの方が、来年度そのまま移行したと、全員がそのまま移行した場合、総額で約1,700万円ほど増える計算を今しております。

ということで、今、議員ご指摘の待遇改善、あるいは年収アップという思いはあったけどもどうかということではありますが、確実に今よりよくなるというような制度設計をしておりますので、待遇改善、年収アップにつながっているものというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

12月議会の委員会でも、私、お聞きしましたところ、前年度の収入を下回らないようにするというだけでありまして、これはもう前年度とほぼ同じ金額で、ほんのわずか一時金と言われるほどの収入増は全くないんだと理解しましたが、そこら辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほど申しあげましたように全体額では、約1,700万という金額になってまいります。そういった金額の中で、待遇改善、年収のベースアップというものを取り組ませていただいているところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金と言うからには、まさかまさか年間で、例えば3,000円とか5,000円とかそういうような金額じゃあないと思いますが、そう理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの話にありました職務に応じて金額というのは変わってきますので、多い少ないというものがありますけども、例えば事務補助員、学校管理員、学校調理員等を見ますと、1万円から3万6,000円ぐらいの間で増えてくるということでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金と言えるかどうかわかりませんが、確かに減にならないことは間違いないと思います。

わずか1万円でも年収が増えれば、確かに毎月の給料を減らされて、その分そのまま一時金として払うということではないと思います。私としては、もっとちゃんとやっていただけるのかなと思ったんですが、少し残念であります。

このときも、2年前ですけども、市長の答弁を聞いて、会計年度任用職員制度によって臨時職員の待遇改善がされる。そう思った臨時職員の人も多かったと思うんですけども、少しいろんな服務規程や何かが厳しくなる分だけ、ほんのわずかの一時金、年収増であります。これは臨時職員の人たち口に出さんでも市長が言うんだから、もっと期待した人が多いとは思いますが、そう思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

服務規程というお話もありましたけども、服務規程が適応されるということではありますが、現在も守秘義務であったり、職務専念義務などをご遵守いただいておりますので、基本的には大きく変わるというものではありません。

また、先ほど意向調査でありますけども、実際にそれぞれの方が、今幾ら給与をもらって、来年度どうなるかという金額を実際の数字を皆さんにお渡しした上で、今後も継続されるか、継続されないかということをお聞きしております。その中で9割の方が継続したいということで、1割の方は退職ということで。その1割が、じゃあ多いか少ないかということでありますが、毎年ほぼこのぐらいの数の方が、お辞めになっていらっしゃると思いますので、この制度によって新たにお辞めになったという方は、ほとんどいないんじゃないかというように推測しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私、今回の質問するに当たって、ハローワークの糸魚川市役所の募集を確認いたしました。そうしましたところ、保育補助員、時給830円から900円、調理補助員、時給850円から880円、教育補助員、時給830円から920円、この募集の金額を見ますと、応募するのはどうせ女性だろうから、最低賃金でも働いてくれるだろう。こんなような考えが、見てとれるような気がします。これに応募して会計年度任用職員になったとしたら、月収は、最低賃金を下回る人が出るんじゃないかと思いますが、そういう方はおりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

830円という話でありますけども、求人票をハローワークに出した時点では、時給が決まって

おりませんでした。ということで前年度、今の金額を出させていただいております。今この金額は、変わっております。約数%、何%か上がった金額ということでありまして、基本的には最低賃金を下回ることがないように設定しておりますし、万が一、それより上回る金額でありますけども、万が一、10月1日でしょうか、最低賃金が変わって、それを下回ってるようでしたら、速やかに基準どおり法律にのっとって対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金は、わずか1万円から数万円だから、それを半年分集めても最低賃金を下回ることはない程度の金額だと。毎月の賃金、時間当たりになると最低賃金を下回らない程度の金額にはなるという、そういうことでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的に、その職務によって金額というのは異なってきます。中には時給何千円、少ない、金額の高い二千何百円という方もいらっしゃいますので、職務に応じて金額を提示させていただいて、それに対してご応募いただいて、採用させていただいてるという状況なので、いわゆる明確に数字を出させていただいた上で募集させていただいておりますし、法律違反にならないように、当然でありますけども、努めてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと途中で6カ月間、一時金もらえる期間に当てはまらなくて、短い期間で辞めたというような方があったとして、それで最低賃金を下回るようなことはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

あらかじめ6カ月未満で雇用するという契約も、実際にはございます。具体的に言うと、例えば今やってます税金のほう、納税の関係とか、あるいは選挙の関係といったことがありますけども、それもこういう金額ですということでお示しさせていただく中で、ご応募いただいているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

その場合にも最低賃金を下回らないということで、理解させてもらってよろしいですね。

私は本当は、実はほかの自治体で加茂市、ちょっと調べてきたんですが、加茂市の募集では、保育士（会計年度任用職員）、報酬月額18万1,161円（期末手当支給あり）、こういうような形でしっかり職安への募集でも書いてあったんです。こういうのを見ると、間違いなく時給、最低賃金を下回らないし、その上に期末手当の支給があるんだなということがわかるんですけども、糸魚川市の場合は、私見たのは、令和元年度だったかかもしれませんけども、830円からとなっていたものですから、そこから期末手当分を少しずつへつっつといて、期末手当として払うということかなと心配しましたんで、質問させてもらいました。

ところで、昨年12月18日、高市総務大臣が会計年度任用職員への移行とともに待遇改善のための予算を用意したと。それにはまた、地方団体に対してどの程度のお金が必要か、所要額を調査して決めたんだという話が載っておりましたが、そういう期末手当等の所有額の調査、こういうのは、糸魚川市にもありましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嵐口課長課長補佐。〔財政課長補佐 嵐口 守君登壇〕

○財政課長補佐（嵐口 守君）

国の一般財源を確保というお話が出てまいりました。交付税での措置ということになりますが、ただいま国のほうでも2回目の交付税の基礎調査的なものを開始しておりまして、内容についてはわかりませんので、出ましたらまた、探してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

調査ということでございますが、平成31年の4月5日に新潟県の市町村課長から依頼があり、回答しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと、それにはどのような形で応じたものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

回答の内容につきましては、平成30年度が6億6,984万2,000円、それから、令和2年度は7億1,680万円ということで数字を出しております。

ただ、これが平成31年の3月5日ということで、まだ私どもも制度が固まっていない状態ということは、ご理解いただきたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

これは糸魚川市での所要額でしょうから、これ全国集まったら、とんでもない金額になりますけども、高市総務大臣の1,700億円というのは、それからすると随分わずかな気もしますが、そこら辺どう思われますか。全部集計したものだと思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

多分、期末手当の分になるのかなというような推測はしておりますけども、具体的にどう積み上げたかは分かりませんし、その1,700億円が、実際に糸魚川市にどれだけ入ってくるかということとは分からないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

でも、総務大臣が予算を確保したと言ってるわけですから、今年ばかりじゃなくて、今後のこともありますので、実際どれくらいかかるよと。これじゃ足りませんよというような話は、この先できるんじゃないかと思えますし、ぜひともそれをやって、会計年度任用職員の待遇改善につなげていってほしいと思えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今ご指摘の国から幾らくるかという状況、それから新潟県内の他市の状況、それから地域の企業の状況、そういったものを全て見る中で、糸魚川市としてどうすべきかということを決めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私考えますに、市長の言葉というのは非常に重いと思います。わずかでも年収が上がったから、それでいいやというものでなくて、これからやっぱり特に臨時職員、今年は会計年度任用職員ですけれども、女性が多いわけですし、糸魚川市は本当に女性がいなくて、まだ消滅可能都市には入っていないかもしれませんが、そこが一番問題となる、人口問題ではなると思います。これやっぱりぜひとも改善していただきたいと思います。

それで（2）です。民間の非正規・臨時労働についてですが、現在、保育士不足ということが言われておりますが、実は潜在保育士が全国に75万人もいて、年々増加してるとも言われております。糸魚川市では、潜在保育士の調査はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃる調査は、市の独自の調査は行っておりません。潜在保育士については、新潟県で保育士サポートセンターという組織が開設されておりまして、潜在保育士の活用を図ったり、また、情報共有を行っているという現状であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私のはインターネットのデータですけれども、潜在保育士が増える、この原因については、何か考えられることはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

潜在保育士の8割以上の方が、保育園や幼稚園で勤めたことがあるという方でありまして、最も多い退職理由は、結婚・出産というふうに一般的に言われております。復職するに当たって、最もその方たちが必要としているということは、急なお休みをいただきたいということや、子育てに応じた勤務形態など、子育てを優先できる環境を求めているということでもありますので、安心して働くことができる環境づくりが必要なのかなというふうには考えておりますが、糸魚川市の在宅の保育士の方には、全てではありませんが、保育園の保育士がお休みを、休暇をとる場合に代替として勤務していただいているという現状もあることをご承知おきいただきたいなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

考えてみたら、私の周りにも時々出てくる保育士さんがおりました。

この間、能生で民間保育園の理事長及び園長の方と懇談する機会がありました。それによりますと、民間経営の保育園は、利用者に対してきめ細かな対応を心がけている分、保育士の負担が大きくなる。待遇も市営保育園のようにはなかなかいかない。民営保育園は、過疎の進む地域に多く、経営も不安定になりがちで園児の減少も激しく、保育士さんにとっても不安定職場となる可能性が高い。こういった状況では、保育士さんの確保、確保競走に対しても公立保育園とまともに張り合えるわけがないと、そういう糸魚川市に対しての支援増を求める声が多く出ておりました。この現状を調査して、対策をとってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

国も民間保育園、民営の保育園につきましては、国の制度として処遇改善を行っているところがあります。また、市としても理事長や園長などと定期的な情報交換を行う中で、課題を共有して、課題解消するためにハード・ソフトに限らず、市の独自の補助制度を創設するなど対応してきたところがあります。今後ともそういった話し合いの中で課題が出てくれば、検討して、対応していくということになってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

民営保育園の側からは、公立保育園を全部民営化して、対等な保育士獲得競争をさせてくれ、こういったような声さえ聞こえます。

しかし、私は、本来は保育士さんの労働環境や待遇の改善で、潜在保育士さんが現役保育士として働きたくなるような環境を整えるのが本当の在り方だろうと考えております。日本一の子供を育てる、こういう目標を持っている糸魚川市であります。民営化による経費削減を進めるだけではなく、責任を持って日本一の子供を育てる土台を、保育士さんが働きがいや誇りを持って子育ての応援できるような土台づくり、これをしっかりつくっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

平成27年度に、国の制度改正がございまして、保育の実施主体は市というふうに明確に示されております。公立、私立問わず、市が責任を持って保育に当たるということになっております。就学前につきましては、人間形成において土台をつくる本当に大切な時期だというふうに思っております。保育士が楽しくなければ、子供も楽しくありません。そういった楽しく保育できる環境をし

っかりつくっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしく願いいたします。

それで、次の持続可能な糸魚川市についてです。

老年人口指数というのは、65歳以上の人口を65歳以下の人口で割ったものであります。農村地域では、糸魚川市を見てもわかるように、日本は世界一老年人口指数が高いと言われても驚きません。ところが、若者の流入が続いている東京都等の都会においても老年人口指数が世界一になっているわけです。

老年人口の増加は、2040年まで、あと20年先まで続くと言われております。日本は、世界で一番消滅可能性国となってるような感じがしておりますが、このあたりどう考えますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

老年人口指数で見えていきますと、私も今回、議員のこの質問で見ましてやっぱり非常に日本も高いし、世界の中でもそういった状況だというのは、よくわかったというふうに思っております。そういった中でも、今、国のほうでも人口減少に歯止めをかけるというところで、今、地方創生ということで国を挙げてやっておるところであります。そのためにやっぱり出生率、出生の数を上げていかなければ、日本の国という意味でいくと、ここが一番大事なところだと思いますので、取り上げて一生懸命やっているとします。

糸魚川市でも結婚の支援ですとか子育ての支援とか、そういったところを今に始まったのではなくて、過去からこの問題というのはずっと何十年もやってきて、今の結果になってるわけでありませうけれども、確かにこういった数字を見ていくと、これでやって、一番大事なものは、諦めてはいけないというのは、私思ってます、やっぱり継続してくというのが大事だと思います。粘り強く、小さくてもいい本当に身近なところ、できるところ、一人一人が輝いてる。そういったところで粘り強くやっていくというのが大事だと思いますので、そういった気持ちで今後も事業は継続していかなくちゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

さらに深刻なデータがあります。人口1,000人当たりの出生数、これは国際的に出生率として用いられているようですが、日本はデータのある200か国中、第200位、最下位で、1,000人当たり1年間に生まれる子供の数8.2人となっております。フランスやアメリカ、こ

これは1,000人当たり12.6人ですから、アメリカ、フランスの3分の2にもなっていないわけです。本当に深刻な状態だと思います。

この実態から、この原因を探らずに維持可能な日本、維持可能な糸魚川は、あり得ないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

出生数ですけども、年間に生まれる子供の数100万人と言われてました。もうとうとうそれが90万になって、もしかしたら、今年90万を切る可能性もあると。非常に厳しい状況であるなどというふうに思います。

その中で、糸魚川市でもやっぱりかつては出生の数というのは600人、それが今200人、3分の1までになっている。本当に低下してきてると思いますので、やっぱり子供がいないというのは、地域経済も含めて活力なくなってくると思いますので、やっぱりここは1つのバロメーターというふうに思いますので、何とかいろんな施策を組み合わせる中で取り組んでいかなきゃならないというふうに、一番重要な課題であるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私ちょっとデータ調べたんですけども、西暦2000年を100とする1人当たり給与の国際比較のデータを見てみました。韓国は、遅れた国からどんどん進みましたので、韓国は200%を超えております、この十七、八年間の間に。イギリスは180%、イタリアとフランスは1人当たり給与2000年と2017、8年ころで150%を超えております。アメリカ、ドイツは約150%ぐらい。日本だけが横ばいの100%となっております。このことは、未婚者が増え、出生率を下げた大きな原因の1つと思うんですが、そこら辺はどう思いますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員の質問の中にも、市長の答弁でも1回目でもございましたけども、賃金の問題も、賃金の関係も結婚に至らない理由の1つ、要因というふうには考えておりますが、私は決して、それだけではないというふうに思っております。

やっぱり内閣府の少子化社会対策に関する意識調査というのを2019年にやっております。そのデータの解析を見ていきますと、賃金が低いから、お金がないからというのも、それは要素としてはあるんですけども、そのほかにもいろいろな、人とのコミュニケーションがうまくとれないですとか、いろいろ出会い、この場がないとか、適当な相手に巡り会わないとか、やっぱりそういった要素もほかにもあるんだなというふうに思います。非常にやっぱり複雑に、多様な人それぞれの

価値観というふうには1回目で表現してはいますが、いろんな要素があるというふうには思っております。お金がないというものは否定はいたしませんけれども、それだけではないというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

確かに最近の30代、40代は子供の頃からファミコンや何かで育って、周りの友達とあんまり外で騒いだりしたことがない、そういう人が多いもんだから、女性と余り話するのが苦手だとか、そういうのも多いと思います。どっちにしましても、このままでは地方創生も持続可能な糸魚川も、まず人口減少問題にブレーキをかけることができなければ、これは進むばかりだと思います。

ちょっと調べてみたんですけども、糸魚川市の所得が低いのも1つの原因だということですけども、糸魚川市、大企業はありますけれども、大企業はほとんど本社が東京やなんかにあります。デンカも、セブンイレブンもローソンも、ヤマダ電機もみんな東京にあります。そういう大企業に糸魚川から、地方から富が吸い上げられているわけですけども、それがほとんど東京へ一極集中されております。そこで若い人たちが東京へ出ていってしまう。これはその形ではどうしようもないことなんかもかもしれません。

また、糸魚川のごみ焼却場の施設の建設にしましても、稼働時の維持管理もやはり東京に本社があるような工場へ糸魚川の税金、それから富を吸い上げられてしまう。そういう状況になっていると思います。その形が、東京と地方の格差を拡大させ、人口の移動に地方を疲弊させたのではないかと考えております。

地方の農水産業、これも6次産業化して、できるだけ付加価値をつけて、糸魚川市内で富を確保しよう、こういうことが取り組まれておりますが、市民所得はなかなか伸びてきません。こういったところで、糸魚川市が頑張るには、やはり糸魚川市に女性をしっかりと落ちついてもらえるような形をつくるしかないでないかなと思うんです。

先月、地方議員研究会のセミナーに参加して、フィンランドの教育福祉の勉強をしてまいりました。フィンランドでは、1917年ですから、もう200年も前に子供を虐待から守り、国の宝として育てるための制度をつくっております。100年もかけて、現在に至るネウボラという仕組みであります。日本では、現在、子供の虐待が問題になっておりますが、フィンランドでは、それは100年も前からその解消をしようということで始めたわけですが、子供を育てるに当たって、経済的な問題や精神的な悩みは、現在ほぼないそうであります。出産や子育てに手当が充実しており、育休も充実し、男性も育休しっかりとらなきゃいけない。それから、自治体は、保育所を24時間確保する義務があるという、そういうことだそうです。やはり自治体の義務として、保育はしっかりとやると。しかも24時間いろんな勤務形態があるもんですから、24時間やるのが義務づけられている。罰則まであるそうであります。妊娠・出産・子育てを通じて、かかりつけのネウボラおばさんが、家族全体を支援し、全ての問題のワンストップ拠点となっているそうであります。ネウボラおばさんは、保健師が担当し、その社会的地位はお医者さんと同等、同格と言われております。それほど人を育てることが重視されていると考えられます。福祉と教育の連携で切れ目なく子育て

を支援する役割を、ネウボラが保育園、児童相談所、家族関係を把握しながら果たしているそうであります。

糸魚川市では、教育委員会のこども課にこども支援室が設けられております。保健師は、福祉事務所、健康増進課、こども支援室に配属されておりますが、その連携につきましては、どのような状態でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

定期的に3つの課の保健師が連携会議を開催しております。その中で共通の課題について協議、情報共有をしております。職域として、課を越えて課題や情報を共有しているといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そこら辺が大変重要なところだと、このセミナーでは講師の方がおっしゃってございました。ひとつよろしくをお願いします。

糸魚川の持続可能性は、このキーワードはやはり女性だと思います。消滅可能性都市のキーワードも、やはり女性であります。他の国と違って、労働者の年収が上がらない日本では、外需やインバウンドに期待しているわけですが、今回のコロナウイルスのような感染が広がりますと、大変なダメージを受けます。糸魚川では、育休についても男性がとれるような職場は、ほとんどないと思われれます。せめて女性の働きやすい職場を市自身がつくり、民間に広めていって、ジェンダー、平等の糸魚川を目指してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のご質問をちょっと総括して、私のほうで全体をまとめてお話しさせていただきたいと思っております。

議員からいろいろ地方創生、人口減少のご提言をいただいたところでありますが、東京一極集中で大企業に経済的に吸い上げられる。やっぱり地域内循環というのは、非常に大切だというのはわかっておりますし、市内、地元の金融機関のほうでも、何とか地域内消費を起こしたいという取組もしっかりやっているとあります。行政の産業政策の中でも、何とかプレミアム商品券ですとか、そういったインセンティブをつけながら、何とか市内経済を循環させるという取組をしておりますので、やっぱり市内の働いてる方、市内の事業所というのは優先的な、そういった取組は総合的にはやっているというふうに思っております。

それと、子育てにつきましては、やっぱり学校教育だけではなくて、地域と家庭とやっぱりそう

いったところの一体となった子育て、それが愛着形成、郷土愛の醸成になる。ここで育った子供は、ここで大人たちに育てられたんだ。だから高等教育機関がなくても、いつかは帰ってこよう、そんな土壌が生まれるということは、非常に大事だと思います。やっぱり地域内経済の循環を回して、いかにこの地域の中でお金を回して、余ったものは外部で稼ぐ、子供たちはしっかり郷土愛を育む、いつかは帰ってきたい、ここはよかったと。そういうところを総合的に進めていかなければいけないと思います。これからもやっぱり粘り強く、諦めては駄目だというのは、私先ほど申し上げましたと思いますので、粘り強くやっていくというのが大事だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしく願いいたします。

フィンランドでは、もう質問ではありませんが、フィンランドの勉強をしたのをちょっと紹介させていただきます。

フィンランドでは、教育は学校の教師の裁量で決められる部分が多く、勉強は学校で完結。宿題は、ほぼない。夏休みのような長期休暇に宿題なんてことは考えられないということでありました。学習塾はない。学校の先生は、午後4時になれば、ほとんど帰宅する。それでも学力は、世界のトップクラスであります。子供たちにとっても、学校教師にとっても、ストレスの少ない形ができていると感じました。

日本とフィンランドでは、社会の仕組みに大いに違いがあります。日本の中の糸魚川としては、できないことも多いかもしれません。ですが、フィンランドのネウボラ100年の歴史に学ぶことは、将来の持続可能な糸魚川に向けて、参考になることが多いと感じました。ぜひそこら辺を研究してみてくださいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

15時50分まで休憩といたします。

〈午後3時37分 休憩〉

〈午後3時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○ 8 番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、地球温暖化と糸魚川市の対策、健康づくりと国民健康保険税軽減の 2 点について、米田市長の考えを伺いたいと思います。

1、地球温暖化と糸魚川市の対策について。

(1) この冬は暖冬少雪と言われる状態でしたが、今後予想される稲作における干ばつ等、対応を考えているか。

- ① これまでの暖冬少雪年にどのような影響があったか調べているか。
- ② 干ばつ対策に必要な河川やかんがい施設の現況を把握しているか。
- ③ 今後予想される干ばつ等、負の影響に対する対応策を考えているか。

(2) 日本政府はCO₂削減に対して消極的であるとして、不名誉な「化石賞」が与えられました。地球温暖化による様々な影響が世界的に出ている中で、様々なレベルで取組が行われておりますが、まだ進行をとめるだけの取組とはなっておりません。CO₂排出削減や地球温暖化による様々な影響に対する対応、対策について、糸魚川市はどのように考え取り組んでいるか。

- ① ごみ処理施設におけるCO₂削減対策や資源再利用のためのごみ分別収集の取組はどうか。
- ② 市有施設の自然エネルギーへの転換及び市民や事業所への支援は、どのように行っているか。
- ③ 省エネ化の取組は、どのように進めているか。

(3) 地球温暖化が進む中で、今後の除雪対策、地域産業に対する影響と対応、振興策等、どのように考えているか。

- ① 温暖化が進む中で、長い目で見た除雪対策を考えていく必要があるのではないかと。人口減少が進む中で、中山間地域の維持存続とあわせ、その地域の農業等の従事者、住民に除雪も委託できるような体制づくりを検討していく必要があるのではないかと。
- ② 稲作におけるコシヒカリから新之助への転換等、農業に限らず温暖化に対応した取組を進めるべきでないかと。
- ③ 根雪期間が短くなることにより、スキー場の営業期間も短くなってきていると思います。2つのスキー場に対する抜本的対策をとるべきではないかと。

2、健康づくりと国民健康保険税軽減について。

(1) 「健康いといがわ21」では、当市の死亡原因について「がん」、「脳血管疾患」、「心疾患」が約半数を占めていると述べております。国民健康保険加入者の医療費に占める、これら生活習慣病の割合は、入院医療費、外来医療費の約4割を占めているとのことであります。

これまでの取組を踏まえた現状と課題、また早期発見・早期治療に結びつく特定健診等の受診率の推移について、どのように考えているか。

(2) 生活習慣病と食生活は、密接に関連していると思いますが、適切な食習慣の普及啓発、地元食材（ナガモ等海藻類、魚介類、緑黄色野菜、菊芋等）の活用推進は図られているか。が

んや肥満予防等、食材の面で地域、農協、漁協、農業普及指導センター等、連携についてはどのように進めているか。

(3) 健康づくり先進地で取り組んでいるウォーキングによる健康づくりの取組を行う考えはないか。先進地では健診や様々な講座等と結びつけた楽しめる取組を行っております。健康づくりを市民と一緒に取り組むことが、課題を解消する大きな力になると思いますがいかがか。

(4) 健康づくりの取組を強化し、医療費を減らすことで均等割をなくす等、国民健康保険税の引下げを図るべきではないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、21年の暖冬少雪の際には、5月までの少雨が重なり、一部区域において水不足による耕作に支障が出ました。

2つ目につきましては、現在、水不足に備え、関係者によるため池のパトロールなど、現況の把握を行っております。

3つ目につきましては、30年度は、農業用水を確保するため、干ばつの対策を行っておりますが、今後も気象や耕作条件などの状況把握に努め、対応してまいります。

2点目の1つ目につきましては、現施設より燃料や電力を抑えることにより、二酸化炭素排出削減に取り組んでまいります。また、リサイクル可能な資源物を分別して回収できるように周知してまいります。

2つ目につきましては、市有施設では31施設で太陽光発電やペレットストーブを導入しており、引き続き、施設更新時等の際に自然エネルギーの使用を検討してまいります。また、現在も当市は自然エネルギーの利用は非常に高くなっており、新たに自然エネルギーの導入を検討している市民や事業者に助成を継続してまいります。

3つ目につきましては、グリーンカーテンの設置やクールビズの推奨など、市民に周知しております。

3点目の1つ目につきましては、除雪業務の担い手不足も課題の1つとなっていることから、検討する必要があると考えております。

2つ目につきましては、国や県の動向に注視する中で、市民と連携しながら取り組んでまいります。

3つ目につきましては、冬季観光の拠点であるとともに地域振興や健康増進等に寄与する施設であると考えており、引き続きグリーンシーズンを含め、利用者の確保に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、特定健診の受診率は年々上昇しておりますが、今後も引き続き受診率向上と生活習慣病や重症化予防に取り組んでまいります。

2点目につきましては、生活習慣病を予防するために、健診結果等から自分に合った食事について指導を行っております。

3 点目につきましては、市の運動教室でのプログラムに含まれておりますので、今後も普及啓発に努めてまいります。

4 点目につきましては、均等割廃止については考えておりませんが、本定例会において税率改定の提案をさせていただいており、加入者の負担軽減を図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8 番（新保峰孝君）

産業活動や人間生活に起因するCO₂の増加による地球温暖化が指摘されてから、かなりの年数がたちました。その間、温暖化の影響が目に見える形であらわれてきていると思います。気温が上昇し、気候変動が激しくなり、災害が多くなってきていると思います。同時に、地球上の氷の90%が南極、9%がグリーンランドにあるとのことですが、その他の氷河も含め、その氷が解け始めている。その結果、グリーンランド、アラスカ、シベリア等に住んでいる人たちにも影響が出てくること、海水面の上昇により、南太平洋に水没する国も出てくること指摘されております。南極の氷が全て解けると、海面が60メートル上昇すると言われておりますが、CO₂の排出を削減しなければ、その速度は速くなるということになります。その間、生活するのに大きな影響を及ぼす災害が多発することになりますし、植生も変わってくると思います。それらを踏まえて伺いたいと思います。

今年の暖冬で、山に雪が少ないことから、干ばつの被害も予想されます。事前に対応できることを早くやっておく必要があると思いますので、質問いたします。先ほど市長からも答弁ございましたけれども、私は、それよりちょっと前の資料で言わせていただきます。

今から26年前、1994年、平成6年の干ばつでは、その年の8月19日現在、新潟県全体で水稲、園芸作物など100億3,400万円の被害がまとめられております。合併前でしたが、旧糸魚川市、旧能生町でも水田を中心に多くの被害が出ております。緊急対策は、1カ月さかのぼって5月10日から、旧糸魚川市ですが、5月10日から対象とされておりました。当時の記録、こういう災害の記録を確認されておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

今ほどの議員言われました平成6年のときの対応につきましては、土壌改良材ベントナイトの購入費、購入につきまして、全農家を対象に購入単価の一部を補助するということで、糸魚川市、ひすい農協のほうで、一部補助をしている政策、対策をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

いろんな対応策、かんがいの場合、干ばつの場合もいろんな対策があるんで、その1つだと思いますが、かんがい施設、当時、水田の用水については、ため池の水がなくなって、運んだり、河川からポンプアップしたりしておりましたけども、そういう状況、いろんな支援事業、補助事業をつくって、市独自の事業をつくって対応したんですけども、そういう記録ですよ、以前の。大きい被害が出たときの記録、参考になると思うんで、把握されているかどうか、いま一度お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

現在、大きな被害としては直近で、平成30年の渇水があります。そちらのほうでの対応が、近年では一番大きな被害ということもあって、その対応については行っているところであります。具体的には、消雪パイプ、井戸の開放でありましたり、先ほど申しあげましたベントナイトの補助、また、干ばつによって、必要な干ばつ等のかんがいに必要が機材の導入に対しての補助、また、かんがい用資材の購入等の補助等を行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

必ず干ばつが起こるとのことじゃありませんけども、そういう前の状況を把握しながら、どういふふうな状態になっても対応できるように今から取り組んでいただきたいと思います。干ばつの場合、水田が乾ききってひび割れした状態になると。それを放置すれば、場所によっては災害につながるおそれが出てまいります。土砂崩れということになれば、大変なわけであります。

1994年、平成6年当時、糸魚川地域では、市野々、来海沢、真光寺、大和川の開田、東中等が被害を受けておりますし、能生地域では、高倉、大洞、藤崎等が被害を受けております。そのときは、用水でデンカさんのほうからも協力をいただいております。

昨年の台風19号の災害復旧を、今年の作付に間に合うように取り組みながら、地域の人たちと相談しながら、ひとつ対策を進めていただきたいと思いますというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

今ほど議員のほうからご提言・ご意見いただいたとおり、私どもとしましてもそういった点、十分注意をして、農業、耕作に支障がないよう努めてまいりたいというように考えておりますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

昨年12月に行われた第25回気候変動枠組条約締約国会議（COP25）の期間中に、日本が世界の環境団体でつくる気候行動ネットワークから、化石賞を与えられました。石炭火力発電の削減に消極的ということが理由のようではありますが、再生可能エネルギーの推進でも消極的でありませぬ。日本のように、周りを海で囲まれた島国であれば、なおのこと積極的に取り組む必要があると思ひます。

世界の二酸化炭素（CO₂）の排出量は、1位、中国、2位、アメリカ、3位、インド、4位、ロシア、5位、日本、6位、ドイツの順で、1人当たりの順位は、1位、アメリカ、2位、韓国、3位、ロシア、4位、日本、5位、ドイツ、6位、中国の順とのことでありませぬ。これはこういうふうな取組というのは、市町村でも同じように積極的に取り組む必要があると思ひます。それで、来年度から、ごみ分別方法が糸魚川市では少し変わりますが、これまでの説明では、再生利用できないようなプラスチックをごみとして出し、焼却するというような説明でしたが、いま一度その考え方をお聞かせ願ひたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

新しい施設は、ストーカ炉という施設になっておりまして、これまで使っておりましたごみを燃やせずに炭にする炭化炉ではなくて、ごみを焼却する施設になっております。こちらのほうは、市長答弁にもありましたとおり、炭化炉に比べますと二酸化炭素の排出量は非常に少ない施設になっております。また、ごみの分別、変更に伴いまして、今ほどおっしゃったように容器用包装プラでない硬質プラ、硬いようなプラスチックにつきましては、これまで埋立処理をしておりましたが、今度は燃えるごみとしての処理となります。

ただ、これまで硬いプラスチックにつきましても、埋立物から再分別をして、セメント会社等で燃料へリサイクルをしておりましたので、そちらのほうの扱いにつきましては、セメント会社のほうでやっていたものから、市の施設でリサイクルすべき、熱としてリサイクルしているというふうにご考慮しておりますので、その流れにつきましては、CO₂の排出については変更ないものというふうにご思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると、今まで埋立てしていたものの中から、焼却するものが出てくると。どのぐらいの量なのかわかりませんが、ということですね。およそどのぐらいの量になるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

これまで埋立てしていたものの中から、どれぐらい減るかということでございますけども、今、想定しておりますのは、上越市等で確認させていただいております。現在の埋立物から2割減少するというふうに想定させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

ごみの分別区分という話でいうと、燃やせるごみと、1つは埋立ごみと言ったり、燃やせないごみというふうに言ったりします。埋立ごみというふうに一口に言いましても、先ほどの硬質プラについては、現在、収集して、分別をして、基本的には、先ほど高野課長が申しあげましたように、基本的にはプラについては、どうしても金属片等、分離できない部分については、埋立のほうに回ってる部分もございますけども、大部分については、セメント工場のほうで原燃料として使われてるという状況でございますので、今回の新しい施設ができることによって、どの部分が減るかということでございますけども、基本的には変わらないというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

CO₂削減ということで、聞かせてもらってるんですが、今、部長が言われた基本的には変わらないということによろしいんですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐市民部長。〔市民部長 五十嵐久英君登壇〕

○市民部長（五十嵐久英君）

現在、先ほど申しあげたようにセメント会社のほうで原燃料に使う中で、プラスチックについては燃やしながら、その成分をまた材料に使ってるという状況でございますし、新しい施設については、新しい施設のほうで燃やして、先ほど高野課長申しあげたように、熱回収ということで、そのエネルギーを使っていくという部分で、全く違わないかということ、当然違う部分はございますけども、考え方としては今までと変わらないというふうに申しあげたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

CO₂削減ということで、検討されて、取り組んでおられるんだと思いますけども、ぜひそういう点もよく考えながら、取り組んでいっていただきたいと思います。

自治体によっては、生ごみを焼却せずに堆肥化処理しているところもあります。CO₂を発生させずに肥料にするという方法であります、糸魚川市もやっておりますけども、目先のことだけ考えずに先を見据え、将来を考えた取組を行っているのではないかと思います、このような方法については、今後どのように考えていけますか。この先、なお大事になってくると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

生ごみの処理につきましては、大都市圏を中心に生ごみとして堆肥等にリサイクルしている施設がある自治体もあります。

ただ、一定の量を確保できたり、住民のご理解をいただくという作業がありますので、本市としましては、生ごみ処理機の助成ですとか、そういったものの中で対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

こういう点も、なるべくCO₂を発生させないということで、力を入れて、今後とも取り組んでいっていただきたいと思います。

それと、例えば通学路とか、市の施設の街路灯、場所によっては小型の太陽光パネル、小さいのを使うということもあると思います。太陽光パネルを公共施設の屋根に乗せるということもあります。休耕田に設置するという活用を行っているところもございます。取組も多面的に行うことも必要ではないかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

太陽光等の利用につきましては、これまで固定価格買取制度などを利用した売電が主なものでございましたが、そういったものが下落している中で、使い方についてはいろいろな検討が必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

大きい公共施設、市の施設の屋根、学校とかいろんなところに屋根に太陽光パネルに乗せるというのは、いろんな市町村、自治体で取組されておりますよね。そういうものと同時に、もっと手軽

に設置できるものも小さいものも、道路管理者のところで使ってるようなものもありますよね。そういうふうなものも積極的に取り入れられるものは取り入れて、使っていったほうがいいんじゃないかと思うんですが、そういう点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

太陽光ではありませんけども、現在も小水力のエネルギーですとか、そういったものを監視カメラで利用したりしておる施設もございます。また、新しい清掃センターでは、街路灯にハイブリッドな電灯をつけさせていただいております。そういったところで、また、活用もさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

除雪対策の関係で、先ほど市長からも答弁ありましたけども、人口が減るのは、国の政策の結果であります。だからと言って地方自治体が手をこまねいて見ているわけにはいかないと思います。過疎化が進む中で、どのような取組を行うかという観点から言わせていただいたんですが、糸魚川市の20年後の人口推計では、3万人を割る、切ると言われております。人口減の影響は、過疎化が進むという形で、中山間地から大きく出るように思います。中山間地だけではございませんが、特に目に見えて出てくるのではないかと。過疎になってくる中山間地で、どのように地域を守り、地域と密着した産業である農業を守っていくかということでもあります。現在、除雪を受け持っている業者も、他の業種と同じように人口が減れば減っていくでしょうし、雪の降る量と期間は目に見えて減り、短くなっていくと思います。今までのようなやり方が、通用しない時代になってきております。そのときに、これまでと同じやり方をしていたんでは、地域の存続すらできなくなるのではないかというふうに考えるわけでもあります。

これは、除雪作業と地域をどういうふうに生かしていくかというか、地域の存続という両面から考えて言わせてもらってるんですが、除雪作業が少なくなっていくと。地域に住む農家、住民が作業するというのであれば、弾力的に対応もできるのではないかというふうな考え方があります。先ほどそういうことも必要だということもございますので、ぜひそういう地域のいろんな業種の方たちがそこに住んでいる。そういう人たちが1つの仕事だけでなく、山陰でよく言われておりました半農半Xのような形の、そういう仕事のやり方というの、今後、いや応なしに求められてくるのではないかなど。専業だけで、例えば50町歩、60町歩、まとめてできるところがあるかどうか、市内で、ちょっとわかりませんが、30町歩、40町歩、平野部みたいにやったとすると、その地域の維持なり存続が非常に難しくなると。ですから、一定程度の面積の制限をしている農地、耕作面積の、フランスはそういうふうにしてるらしいんですが。それで地域を成り立たせていくという考え方もあるのではないかというふうに思います。ぜひそのように先ほど答弁ございましたが、

やっていただきたいと思います。

温暖化に対応した取組の関係ですけれども、温暖化の影響は、農業、あるいは漁業などの産業にも出てきていると思います。例えば稲作においては、コシヒカリは日本全国といってもよいような広範囲に作付されておりますけれども、新潟コシヒカリの品質が一番ということになっております。温暖化によって、中山間地の品質が上昇し、平場の品質維持が一層難しくなっているのではないかなと思います。

いろんな形で影響は出てくると思うんですね。上刈ミカンが北限と言われた時代から、かんきつ類においても変化してきているのではないかと思いますし、漁業においてもスケソウダラがいなくなったと、サワラが北上してきたと、漁期がずれてきているように思うとの漁業協同組合の話もございます。稲作におけるコシヒカリから新之助等、温暖化に対応できる品種も取り入れていく等、農業に限らず温暖化に対応した取組を進めていく必要があるのではないかと思います。これは市でこうするという、全部やるわけでありませんが、協力しながら取り組んでもらいたいということでもあります。温暖化防止の取組を進めると同時に、実際に温暖化している状況に合わせた取組もしていく必要があるのではないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

確かに農業、漁業という分野では、海水温度の高さであったり、昨年来のフェーン現象の影響であったり、いわゆる気象条件、また、議員の言われております温暖化等の影響によりまして、その環境条件等が刻々と変わってきているという状況であります。それにつきましては、議員のご提言のとおり、やはり考えていかなければいけないということであろうというふうに思っております。

漁業につきましても、魚種が変わったり、漁獲高が変わったりということがございますので、そういったところにつきましては、私どもも積極的に漁業協同組合のほうと、また話し合いを持っていきたいということがございます。

農業につきましては、今ほどお話もありましたけれども、私ども現在のところは、糸魚川市のコメ政策の基本方針というものがございまして、あくまで私ども、現在、糸魚川市では、主要品種コシヒカリのより一層の品質向上、収量確保に取り組むというところが、大きなところで今やっているところでございます。その中で気象条件に合わせて、その耕作を現在のところは、しっかりとJ A、県等々、関係者、関係団体で取り組んでいるというところであります。

そういった状況の中で、しっかりと今ほど申し上げた状況を踏まえながら、今後の進め方を、また今後、検討も継続して、検討もしていく必要があるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

スキー場に対する取組について、お聞きいたします。

糸魚川市内には、市所有の2つのスキー場がございます。1つは、シーサイドバレースキー場で、1980年、昭和55年に民間会社健文が開設し、運営会社が次々と変わる中で倒産、糸魚川市が買い取り、1998年地域主体の会社が設立され、そこに運営が委託され、現在に至っております。

もう一つは、シャルマン火打スキー場で、国土計画株式会社が開発を断念した後、能生町が1998年、平成10年に開設し、町営から第三セクターの火打山麓振興株式会社の運営となっております。

現在は、いずれも指定管理になっております。シーサイドバレースキー場は、標高は低いですが、交通の便もよく、大人から子供まで楽しめるということで、利用者には利用しやすいスキー場だったのではないかと思います。シャルマン火打スキー場は、標高が高いのですが、どちらかというと交通の便が悪く、傾斜が急なため上級者向きと言われ、利用者はシーサイドバレーよりも利用しにくいという状況で推移してきた感があります。維持管理費は、どちらかというとシャルマン火打スキー場が多くかかっていると思います。今年は暖冬で、シーサイドバレースキー場がオープンできなかったという状況であります。私は、ここまで温暖化が進んでくれば、スキー場に対する抜本的対策を取る時期に来ていると思います。

以前、運営会社が倒産し、シーサイドバレースキー場を市が買い取った頃、20年前頃であります。湯沢の観光協会を訪ねました。スキー場の運営について話を伺うためであります。そのときに言われたのが、この先、生き残るスキー場は、スキーに適したところだけになるということと、スキー専業ではなく、シーズン以外は農業や民宿等、ほかの仕事をしているということでありました。そのことがずっと頭に残っております。

近年は、誰の目にもはっきりと温暖化で雪が少なくなってきたことがわかるようになってまいりました。雪があるという前提条件が、温暖化で大きく変わってきていると言えるのではないかと思います。糸魚川市としてのスキー場に対する考え方を、いま一度お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように、今年は本当にいまだかつてない温暖で起きてるのか、どういう状況で起きておるかわかりませんが、雪のないこの冬であったわけでありまして。雪国というのは、もう我々拭い去れない宿命だと思っていたわけでありまして、こういう状況が起きております。そういう中で、これからずっと降らなくなったということであれば、またそれはそれでいいかなとは思いますが、しかし我々は、やはり雪というものを長年、雪国の中で雪国地方として来とるわけでございます。そういう中で水資源として生かしたり、また、冬期間の降雪をいかに生かしていくかというのは、雪国の宿命だったかと思っております。そういう中で、やはり雪を生かす施設として、シーサイドバレースキー場にしろ、シャルマン火打スキー場にしろ、設置してきたわけでありまして。雪をやはり地域の1つの地域振興であったり、そして、観光的な交流人口の拡大に生かしていきたいというところで、進めてきたわけでございますので、しっかりともう一度、経営的な面においてしっかりと検証しながら、生かしていく方法、案を模索していきたいと思っております。当然、スノーシ

ーゼンだけではなくて、ホワイトシーズンだけではなくて、グリーンシーズンも使いながらということになるかと思うわけでありますが、今後しばらくは、まだまだ雪が続くというのを頭に置きながら、取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

温暖化は、一直線に進むのではなくて、いろいろ運動しながら進んでいくと思いますが、私は、これまでも言わせてもらいましたが、当面の方策として、指定管理料を含めた維持管理費の上限を決める。2社を一本化する。性格が違うので、統合はできないというのであれば、今後、何年間の経営状況を見て、どちらか悪いほうを廃止するくらいの構えがなければ、市民の理解は得られなくなるというときが来ると思います。

2つのスキー場の維持管理、運営費が1年で2億2,000万円。シャルマン火打スキー場管理運営事業で、この冬は8,400万円ぐらい。シーサイドバレー、いつもは少ないんですけども、今年は1億3,300万円、両方合わせて2億2,000万円ほどになりますよね。市の職員1人の人件費を単純に500万円とすれば、40人分に当たる額であります。市営だから赤字になってもしょうがないで済ましていいのかどうかと、私は思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

赤字になっていいと、決して思ってるわけではございません。やはり今、少雪といういまだかつてない雪がないという状況でございますので、それに対してのやはり指定管理の決めの中で取り組ませていただいておりますし、シャルマン火打スキー場におきましては、やはりこれもいつもよりは雪が少ない中で経営をさせていただいております。そういう中で、これは続くという考えはございません。やはり我々も見ておるわけでございますが、シーサイドにおきましては、雪のなかったということは今までなかったわけでありまして、そういうことを考えたときに、こういうことはやはりこれから起きるかもしれません、いまだかつてない対応という形でとらせていただいております。そういう中で、これからも管理といいましょうか、経営に対してはやはり厳しいこの目で、また厳しい指定管理者の受ける会社についても取り組んでいただけるよう指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

私は、シーサイドバレースキー場は非常に厳しくやれていると思います、会社としてね、聞いてますから。ですけども、やっぱりこういう自然現象、人間が起こした自然現象で温暖化が進むとい

うことになれば、それに対応したものを前々から検討しておくというのは非常に大事だと思います。抜本的改革を今後とも求めていきたいと思っています。

健康づくりと国民健康保険税の軽減の関係ですが、1つは、早期発見・早期治療の関係で伺います。

最初に言いましたけども、当市の死亡原因の半数は生活習慣病によるもので、国保加入者の医療費の4割が生活習慣病に関連する、起因するものだということでもあります。生活習慣病に起因する、生活習慣に起因するというのは、喫煙とか有害物質の体内取込み、塩分過剰摂取による高血圧、糖分過剰摂取による肥満などが考えられますが、どのようなものが原因と考えられておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

生活習慣病につきましては、新保議員、今お話がありましたように喫煙でありますとか、栄養の過剰摂取でありますとか、運動不足だとか、そういうものが複合的に絡まり合って、日常生活の中で発生する病気というふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

生活習慣病を減らすためにどのような取組を行ってきたか、その効果はどうですか。全体として生活習慣病は減ってきましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市の健康づくりの基本としまして、健康いといがわ21という計画を策定して、これにつきましてもそれぞれ目標を立てながら、その実践に努めておるところであります。一番基本になるのが、健康診査の受診率でないかなというふうに考えておりますが、これについては平成26年、計画策定時の数値が48%、それが最新の数値でありますと53%ということで、3ポイントの上昇を見ております。また、食事、それから運動等につきましても、それぞれ目標を掲げながら生活習慣病の取組を行っておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

がんと受診率ですけども、3分の2まで上がると医療費が下がってくると。3分の2以上になると医療費が下がってくると言われております。ぜひそこまで頑張っていただきたいと思っています。がんと塩分・糖分の過剰摂取の関係でお聞きします。

有害物質の体内取込みやストレス等も原因となることもあるかもしれませんが、それらを起因としたがん、それと塩分・糖分の過剰摂取による生活習慣病を少なくしていくためには、市民に分かりやすい方法で理解してもらいことが大事だと思います。その1つとして、検診の受診がありますけども、上がってきてはいるんですけども、まだ半分越えたぐらいということですよ。一生懸命やってるはずですが、何でそれ以上、上がらんのかと。それでもまだ1%、2%ずつ上げていくという、そういう構えでやられておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

検診の受診率については、市の計画では6割を目標にしております。検診を受ける方とそうでない方については、医療費、約3倍の開きがあるというようなデータもあります。市としましては、ここら辺も見える化をしながら、また保健師の丁寧な受診勧奨も加えながら、その目標に向けて、今後も取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

がん対策でお聞きします。

糸魚川市は海岸線が広くて、海藻類もたくさん取れます。がん対策にアカモクというのが、そういう海藻が今注目されておりますが、ギンバソウとかナガモとかいろいろ、この辺ではギンバソウというふうに言われてる、その海藻ですが。これが効果があると。大学の研究でも、その仕組み自体はどういうふうに聞くのか、仕組み自体は分からないけども効果があるというのは、出されておる。こういうふうなものも、ワカメを食べようという運動をやられておりますけども、こういう、がんを防ぐという食べ物も一緒に市民に普及していくちゅうか、食べてもらおうと。それで、がんも一定程度克服できればいいと思うんですが、そういう取組はどうですか、いかが、取り組んだらどうかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

新保議員が、今言われましたナガモについても必要な食材というふうに考えております。市はワカメを食べよう運動というようなことで進めておりますけども、これ決してワカメだけということじゃなくて、ナガモなり、モズクなり、ワカメなり、そういう海藻というのは体にいいよというような取組であります。

また、がん予防については、この食育もそうでありますし、先ほどもありました喫煙の問題だとか、いろんな問題が絡まってるので、がんの発症というふうに考えられますので、この食育も含めた総合的ながん予防について、今後も引き続き取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

肥満の関係でお聞きします。

菊芋が肥満に効果があると言われております。菊芋には、ゴボウ以上に含まれるイヌリンという不飽和脂肪酸とカリウムが含まれているということですが、不飽和脂肪酸は中性脂肪を減らす効果があると言われております。同時にカリウムは、塩分を体外に排出する役割があるということですが。菊芋という食材については、意識されておりましたですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

特に菊芋に限って意識をしてということは、今まで健康づくりの面からは、正直考えてきておりません。

ただ、体にいい、そういう食物であるということ、今回、一般質問もあって、学ばせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

菊芋は、市内ではあまり栽培されておられませんけども、農協の直売所でも売られておりました。長野県では、以前から栽培して、製品として出されておりますけども、肥満に効果があるという点で、健康づくりの点で糸魚川市も取り組んだらどうかと。栽培もそう難しいものではない。植えておけば、毎年とっても、残ったものからまた出てくるという簡単な栽培方法もありますし、ぜひ取り組んでいただいたらどうかと。栽培方法がわからなければ、関係の農協さんなりいろんなところに聞けばいいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

菊芋の栽培については、軽作業で栽培できるということをご紹介いただきました。これについては、庁内関係課、またJAとも協議をしながら進めるべき課題だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ウォーキングによる健康づくりの関係ですが、健康ポイントラリーには、どれくらいの市民が参

加されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

参加者数については、今、私のほうで承知は、ここで数字は持っておりませんが、一定程度ポイントがたまりますと、プレゼントがもらえる抽せんに応募ができるような仕組みになっております。その30年度では、約540人の方から応募をいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これを参加しやすく、楽しく、もうちょっと幅、市民の参加する幅を広げる取組にぜひしていただきたいと思います。そうすることによって、いろいろな市の取組も、検診とか、いろいろな講座とか、そちらのほうにもいい影響が出てくるんじゃないかと。市民を巻き込んだ、ぜひ取組にぜひしていただきたいと思いますというふうに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、お話がありましたように、健康ポイントラリー事業については、検診だとか検診に関する事業、教室に参加するとポイントがもらえるというような仕組みになっております。

したがいまして、総合的な健康づくりにつながる事業でありますので、もう少し、もう少しというよりも、もっともっと市民の方に周知をしながら、広がりのある展開にしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ幅広い、市民が参加できるような、そして楽しい取組にしていただきたいと思います。終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時45分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員